

2002年度

講義計画

桃山学院大学



Small, illegible text or stamp located in the upper left quadrant of the page.

Small, illegible text or stamp located in the upper middle-left quadrant of the page.

Small, illegible text or stamp located in the upper middle-right quadrant of the page.

Small, illegible text or stamp located in the upper right quadrant of the page.

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
社会福祉特講（社会福祉の動向分析）		秋学期集中	4 単位	安 原 佳 子
[講義概要・学習目標] 現在わが国の社会福祉は変動の真っ直中にある。2000 年より施行された介護保険法に始まり、社会福祉事業法から社会福祉法への改正、そして、2003 年には障害者に対して措置制度から支援費支給の制度に変更される。社会福祉を实践していく上ではそのような動向を性格に把握していくことが重要である。本講ではこうしたことをふまえ、福祉専門職として備えておくべき知識や技術、判断力の習得に重点を置く。また、社会福祉士試験対策をかねて基礎的な知識を習得することも目的であるので、福祉専門科目のみならず、試験の範囲科目である社会学、心理学等も網羅する予定である。 ※なお、昨年度の特講の受講生もサブタイトルが異なるため受講可能。	[講義計画] <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉原論 ・老人福祉論 ・障害者福祉論 ・児童福祉論 ・社会保障論 ・公的扶助論 ・地域福祉論 ・社会福祉援助技術論Ⅰ ・社会福祉援助技術論Ⅱ ・心理学 ・社会学 ・法学 ・医学一般 ・介護概論 ※講義の順序については、初回の授業で予定を提示			
[成績評価の方法] 出席、小テスト、期末テストなどで総合的に評価する。	[参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・福祉士養成講座編集委員会編集『新版 社会福祉養成講座 全15巻』中央法規（特に4回生はできるだけ購入すること） ・『社会福祉士国家試験解説集』中央法規 ・その他、授業中に提示 			
[教科書] 授業中に随時資料配付				

福
社
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉特講 高齢者ケア論		春学期	2 単位	坪 山 孝
[講義概要・学習目標] 私たちは日常生活においてケアという言葉が多用するようになってきているが、本講義では「高齢者のケア」をさまざまな視点から取り上げて考察する。 高齢者の実践領域においてもケアという言葉がよく使われるようになり、その概念が深まりつつある。いわゆる寝たきり高齢者や痴呆性高齢者また施設や在宅における高齢者の終末期の実践等でワーカーがケアという言葉をよく使うようになってきている。 ケアを提供するワーカー、ケアを受ける高齢者それぞれの課題を共に考察しながら、高齢者福祉サービスにおける「自立を支えるケア」について講義することにする。	[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1 ケアの意味 2 ケアを受ける時の課題 3 ケアを提供する時の課題 4 施設ケア 5 在宅ケア 6 まとめ 			
[成績評価の方法] レポートと試験、平常点を総合して評価する	[参考文献] ミルトン・メイヤーロフ 「ケアの本質」 田村真／向野宣之訳 ゆみる出版 野川とも江 「介護家族のQOL」 中央法規出版 他にも授業中に紹介する			
[教科書] 用いない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	01	通 期	4 単位	寺田 友子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>概 要 市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。 私語・遅刻は厳禁。 なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。 	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会生活と法 2 憲法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本原理 2) 基本的人権 3) 地方自治 3 民法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 総則（成年後見を含む） 2) 物権 3) 契約 4) 不法行為 5) 親族 6) 相続 4 行政法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 行政行為及び行政手続 2) 行政不服審査 3) 行政訴訟 4) 情報公開 5) 地方行政組織 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出、出席、授業時間に行うテスト等を評価に加味する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>中川淳『やさしく学ぶ法学』（法律文化社） 『ポケット六法 平成14年版』（有斐閣）</p>	<p>[参考文献]</p> <p>樋口陽一『憲法と国家』岩波新書 星野英一『民法のすすめ』岩波新書 兼子仁著『新・地方自治法』岩波新書 兼子仁著『行政手続法』岩波新書 松井茂記『情報公開法』岩波新書</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商業簿記 (旧簿記Ⅰ)	01	春学期集中	4単位	チョン ジェ ムン 全 在 紋
〔講義概要・学習目標〕 (講義概要) リトルトンという会計学者は、「会計」を「企業言語」ととえた。日本人が日本語で話し、アメリカ人が英語で話すように、「企業人」は会計で話しをするのと見たのである。この伝で言えば、「簿記」は企業の言語(会計)の「文法」だと言えよう。英語の文法が面白くないように、簿記の学習もまた、学生諸君にはとかく敬遠されがちである。しかし、将来企業人として指導的立場に立たねばならない経営学部卒業生には、簿記の習熟は避けて通れない関所といつてよい。 (学習目標) 複式簿記の計算原理・計算構造について理解する。 ① 財務諸表を構成する勘定諸科目の会計的意義を理解する。 ② 複式簿記システムでの会計的取引の記帳方法を習得する。 ③ 決算手続きを理解し、損益計算書・貸借対照表の作り方を学ぶ。	〔講義計画〕 ① オリエンテーション (2回) ② 複式簿記の計算原理 (3回) ③ 複式簿記の計算構造 (4回) ④ 複式簿記の記帳練習 (3回) ⑤ 現金・当座預金の処理 (2回) ⑥ 売上・仕入の処理 (3回) ⑦ 繰越商品・売上原価の算定 (2回) ⑧ その他の勘定の処理 (1回) ⑨ 決算整理事項の処理 (3回) ⑩ 精算表・財務諸表の作成 (2回)			
〔成績評価の方法〕 授業の出席状況、課題(宿題)の達成状況、および筆記試験(前期末試験・学年末試験各1回)の総合点で評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験3級以上の合格者には、別途加点評価する。	〔参考文献〕 井上達雄・新井清光(共著) 『検定簿記ワークブック(3級・商業簿記)』 中央経済社			
〔教科書〕 中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋(共著) 『現代簿記論』 中央経済社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商業簿記 (旧簿記Ⅰ)	02	春学期集中	4単位	中 田 信 正
〔講義概要・学習目標〕 (講義概要) 簿記は、企業の経営成績と財政状態の変化を、貨幣によって記録し、集計し、報告するための、計算の仕組みと方法を扱うものである。簿記は、基礎科目として、他の会計科目より先に学習される必要がある。講義では、複式簿記の計算構造を理解することを重視し、貸借平均の原理、取引、仕訳、勘定の意味を説明する。ついで、試算表、損益計算書、貸借対照表、精算表の作成を学び、簿記的な考え方を身につけさせる。毎時間、内容の説明とともに計算練習を行うので、出席による学習の継続性が重要である。 (学習目標) ① 商工会議所簿記検定試験3級に合格できるように、計算能力を身につける。 ② 会計理論、会計専門科目および経営学関係科目を学ぶための基礎知識を修得する。	〔講義計画〕 ① 複式簿記の意義 ② 資本等式と貸借対照表等式 ③ 取引 ④ 勘定 ⑤ 仕訳 ⑥ 仕訳帳と元帳 ⑦ 試算表 ⑧ 決算 ⑨ 損益計算書・貸借対照表 ⑩ 勘定科目 ⑪ 現金 ⑫ 当座預金 ⑬ 売掛金・買掛金 ⑭ 受取手形・支払手形 ⑮ 商品 ⑯ その他の勘定科目 ⑰ 決算整理 ⑱ 精算表			
〔成績評価の方法〕 期末試験の成績によって評価する。	〔参考文献〕 加古宣士・渡部裕互 (編著) 『新検定簿記講義 3級商業簿記』 (中央経済社) 加古宣士・渡部裕互 (編著) 『新検定簿記講義ワークブック 3級商業簿記』 (中央経済社)			
〔教科書〕 中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋(共著) 『現代簿記論』 (中央経済社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習		通 期	4 単位	清水 信匡
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。</p> <p>①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること</p> <p>まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>春学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 論文とは何かを『論文の書き方』を読みながら理解する。 2 グループごとに適当なテーマを設定し、それについてまとめる。 3 2においてまとめたことを発表し、討論する。 <p>秋学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『経営学入門』の第1部と第2部を読むことで経営の基本を理解する。 2 グループごとに興味のある経営問題を調べて発表する。 3 前期で理解した論文の書き方を応用し、経営に関連した論文をまとめる。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>夏休みと冬休みの課題を主たる評価対象とする。なお、出席状況、授業における発言等も評価に加味する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>澤田昭夫著『論文のレトリック』（講談社学術文庫604）講談社1983年</p>			
<p>[教科書]</p> <p>澤田昭夫著『論文の書き方』（講談社学術文庫153）講談社1977年 伊丹敬之・加護野忠夫著『ゼミナール経営学入門（改訂版）』 日本経済新聞社1993年</p> <p>生協にて一括して購入し販売する。</p>				

「経営学部文献講読」クラス一覧

クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ
01	李 健泳	408	08	津戸 正広	410
02	李 健泳	408	09	本多 毅	410
03	岸本 裕一	408	10	本多 毅	411
04	隅田 孝	409	11	佐々木 宏	411
05	隅田 孝	409	12	村山 博	412
06	隅田 孝	409	13	村山 博	412
07	山本 浩二	409	14	井上 敏	412

1. ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とします。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。
3. 学則上、この科目は経営学部教育科目「学部共通選択科目（4単位）」に位置づけられています。
4. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。

対象者：01B生（経営学部2回生）

定員：30名

日時：3月23日（土） 9:10～13:00（昼休憩なし）

場所：学務課窓口

申込方法：先着順に受付決定します。学務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出して下さい。

<注意> 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限・時間割コードを確認しておいてください。
学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	01 02	通 期 通 期	4単位 4単位	イ 李 コン ヨン 健 泳
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
<p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p><前期> 論理的な話し方と明確なレポートの書き方とは何かを議論しその構造を学ぶ。全員が授業に参加できるように、グループ分けを行ない、グループ間のディベートを通じて、論理的な話し方を習得する。さらに、読み手にとって分かりやすいレポートの書き上げ方をレポートの構造分析を通じて学ぶ。</p> <p><後期> 仮想企業を作ってみるによって経営の仕組みを学ぶ。グループ別によってみたい業種の企業を選び、設立登記までの必要書類を作成するとともに採算計画を起案してみることによって企業経営の仕組みを学ぶ。</p> <p>4. 成績評価法:</p>			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
出席率、ディベートへの参加度、発表の準備などを総合勘案して評価。	<p>バーバラ・ミント著/山崎康司訳、「考える技術・書く技術」、ダイヤモンド社、2800円 小野田博一著、「論理的に話す方法」、日本実業出版社、1300円 長門昇著、「会社の作り方」、日本実業出版社、1400円</p>			
【教科書】				
講義開始のときに指示する				

経営
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	03	通 期	4単位	岸 本 裕 一
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
<p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>2つの教科書を使用しながら、受講者の理解の程度と関心の度合を測りながら、調整しつつ講義を進める。</p> <p>広い経営学がさまざまな研究分野の中には、こんな興味のある分野があることを知ってほしい。(目からウロコカンライ!!) リニューアルする情報センターの設備を駆使しながら、プラットフォームに関わる認識を深めたい。</p>			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
<ol style="list-style-type: none"> 出席 時間中の発表と討論 さまざまなアイデアの提案 <p>※ 期末テストの点数</p>	<p>進行にしたがって指示する。</p>			
【教科書】				
<ol style="list-style-type: none"> 岸本裕一・生明俊雄著『J-popマーケティング-IT時代の音楽産業』中央経済社、2001年。 岸本裕一・田中暹考著『タイアップソングマーケティング-カラオケ全盛時代のヒット曲のメカニズム』同文館、1995年。 				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	04 05 06	通 期 通 期 通 期	4単位 4単位 4単位	隅 田 孝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>以下に概ねの予定を示しておく。この他、必要に応じて指示をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの意義 2. 戦略的マーケティング 3. 企業戦略とマーケティング・ミックス 4. 消費者行動1 5. 消費者行動2 6. 市場調査 7. 製品、ブランド、価格戦略 8. 広告媒体とコミュニケーション 9. 日本の流通とチャネル戦略 10. 新たなマーケティングの展開 <p>実際にワープロソフトを使って文章を書くことも予定している。よって、コンピュータを使った講義を数回行う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>伊丹敬之・加護野忠男(著)『ゼミナール経営学入門』2版 日本経済新聞社、2000年。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>(社)日本マーケティング協会(編)『マーケティング・ベーシック』第二版 同文館、2001年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	07	通 期	4単位	山 本 浩 二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期は、企業の業績評価と戦略実施において注目を集めているバランスト・スコアカードについて勉強します。バランスト・スコアカードというのは、売上高や利益といった財務業績に重点を置きすぎていたこれまでの企業評価に対し、顧客の視点などから非財務的な指標を取り入れて企業の価値を高める戦略を実施しようという目的で考えられたものです。会計学者のキャプランとコンサルタントのノートンが提唱したのですが、日本でも適用しようとしている企業が増えています。代表的な文献を輪読する形式で授業を行います。</p> <p>後期は、日本的な製品開発や経営管理のシステムなどについて学習したり、また、いま我が国でベンチャー企業による新産業創出と経済の活性化が期待されている状況に照らして、ベンチャービジネスに関連する話題など、参加者の関心のあるテーマを取り上げて各自に報告してもらい、みんなで話し合うことを中心にした形式で授業を行います。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>日常の出席状態と担当箇所の報告内容およびレポートによって評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>〈前期〉 伊藤嘉博・小林啓孝『ネオバランストスコアカード経営』中央経済社 〈後期〉 適宜、指示または資料を配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	08	通 期	4 単位	津戸正広
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>経営学の文献を読みこなすためには、読んだ内容を理解して、まとめることが肝要である。つまり、読む能力は、まとめる能力、書く能力と密接に関連している。従って、授業では、伝えたい内容をどのように整理し分類し構成するかということから始める。現代では、この整理・分類・記述という作業はコンピュータを利用してなされることが多いので、授業でも、できるだけコンピュータを活用する。</p> <p>4月は、なによりもまず、経営学的関心とテーマの発見が重要であることを確認する。機械は、テーマを発見してくれないからである。</p> <p>5月は、コンピュータを利用する作法を身につけ、「MSワード」などのワープロ・ソフトの基本を学ぶ。情報倫理や電子メールに関する注意もする。</p> <p>6月および7月は、議論を体系的・構造的に展開するための技法を勉強する。「アウトライン(リンク)」機能および「段落書式」機能を最大限に活用する。夏休みには、各自興味のあるテーマを見つけて、レポートを作成してもらう。</p> <p>9月および10月は、表計算ソフト「エクセル」の基本を身につける。文献目録や読書ノートとして活用する方法を修得する。あわせて、「パワーポイント」を活用したプレゼンテーションの実習も行う。</p> <p>11月以降は、インターネットを通じた検索の仕方とHTML言語の特徴を学び、簡単なホームページが作成できるようにする。</p> <p>以上のような実習に取り組むが、つねに経営学的なものの見方を養うことを忘れてはならない。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への出席を最も重視する。毎回、実習結果をFDに保存して提出してもらう。夏休みには研究レポートの作成を課す。前期末・後期末の2回の試験、課題の提出、積極的な質問、レポートの充実度などを総合的に判断して評価する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>プリントを配付する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業の中で、指示する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	09	通 期	4 単位	本多 毅
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>基本的にはテキストの章構成にしたがって進行しますが、その流れの中で関連する話題や最新トピックスについても資料などを交えながら進めていく予定です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席をまず重視。それにレポート、授業態度(例えば発言の回数)などを合わせて総合的に評価します。無断欠席、遅刻は当然厳禁です。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に適宜指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>土屋守章著『経営学入門シリーズ 現代企業入門』 日経文庫</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営学部文献講読	10	通期	4単位	本多 毅
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>基本的にはテキストの章構成にしたがって進行しますが、それだけに止まらず現在進行形のビジネストピックにも時間の許す限り触れていきます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席の比重が相対的に高いが、授業態度が不良な場合は大きなマイナス評価とします。あとレポート、小テストなどを含めて総合的に評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適宜指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>加護野忠男・伊丹敬之著『ゼミナール経営学入門』 日本経済新聞社</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営学部文献講読	11	通期	4単位	佐々木 宏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>パソコンの実習を交えながら、企業リサーチ、プレゼンテーションの方法等を学ぶ。経営学関連書籍を読み、要約し、これを他人に説明するスキル、企業経営に関連する各種データの分析、パソコンを使った簡単なモデル作りなど、実践的なスキルの向上を目指す。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>プレゼン報告の内容などのアウトプットと平常点を総合的に評価する。欠席が規定回数を超える者は、例外なく×。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて、その都度指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>追って指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	1 2 1 3	通 期 通 期	4 単位 4 単位	村 山 博
〔講義概要・学習目標〕 <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	〔講義計画〕 <p>前期：知的財産管理、著作権管理、情報管理の講義を主体とする。 後期：下記の文献を講読する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) SCM (サプライ・チェーン・マネジメント) に関する論文 2) CRM (カスタマー・リレーションシップ・マネジメント) に関する論文 3) 最新ビジネスモデルに関する論文 4) ネットワーク時代の知的財産に関する論文 			
〔成績評価の方法〕 <p>出席状況、授業態度、期末試験により、総合判断する。</p>	〔参考文献〕 <p>『ネットワーク時代の知的財産』電気通信協会 ISBN4-88549-916-X 『情報セキュリティ技術』電気通信協会 ISBN4-88549-911-9 その都度指示する。</p>			
〔教科書〕 <p>前期：『知っておきたい特許法』11訂版大蔵省印刷局 ISBN:4172175171 後期：授業中にその都度指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	1 4	通 期	4 単位	井 上 敏
〔講義概要・学習目標〕 <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	〔講義計画〕 <p>博物館の経営を題材にして、読む能力、議論する能力などを養う予定である。</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>平常点やレポートなどを総合的に評価する。</p>	〔参考文献〕			
〔教科書〕 <p>追って通知する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論	01	通 期	4 単位	牧 野 源 泉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ミクロ経済学を中心に講義をします。したがって、この講義の目的は、市場メカニズムの機能とそのパフォーマンスを冷静に理解することにあります。</p> <p>まず、個人の消費計画や企業の生産計画はどのように立てられるのか、また、価格は消費計画と生産計画の不整合をどのように調整するか、といった市場メカニズムの基本的な問題を説明します。続いて、市場メカニズムの評価に目を向け、広い意味での「市場の失敗」に言及し、公共政策の対象となる問題を考えます。</p> <p>多くを欲張るつもりはありませんが、近年注目されているゲーム論的接近の仕方、および、不完全情報や不確実性のもとでの意志決定といった問題にも触れます。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ミクロ経済学とマクロ経済学 2 需要と供給 3 消費者行動と需要曲線 4 労働供給の理論 5 費用構造と生産 6 市場均衡と資源配分 7 市場の失敗と公共部門の役割 8 不完全競争の理論 9 ゲームの理論 10 不完全情報の経済学 11 不確実性とリスク 12 異時点間の意志決定と利子率 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義中に時折行う小テストと学年度末試験とによって評点をつけます。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J.スティグリッツ(戴下史郎他訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 ・梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社 			
<p>[教科書]</p> <p>伊藤元重『入門 経済学』(第2版) 日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論	02	通 期	4 単位	森 誠
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近代経済学のマクロ経済学を講義します。</p> <p>まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。</p> <p>近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると 생각합니다。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れているはずですよ。</p> <p>講義では教科書の森担当の章を参考にします。この章はかなり進んだ内容も含まれていますが、講義では初歩から解説します。そして最終的には3節までの内容を理解することを目的とします。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、GDPと3面等価の原則 2、実質と名目 3、ISバランス-日米貿易摩擦と貯蓄- 4、GDP決定論の基礎 5、均衡予算定理 6、IS曲線 7、LM曲線 8、財政政策と金融政策の効果 9、諸問題 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年度末試験</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川洋『マクロ経済学』岩波 ケインズ派の立場によるマクロ経済学 ・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣 問題形式(命題に対する解説)をとっているのがポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。 ・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ 新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。 その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。 			
<p>[教科書]</p> <p>惣宇利紀男、服部容教編『21世紀日本の経済政策』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営管理論	01	通 期	4単位	亀 田 速 穂
	02	通 期	4単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営管理論は企業という組織体の運営技術に関する研究です。この科目が扱う領域の広さについて、その生成期から今日までの発展を眺めると、まず働く人々への動機づけを中心とした人間協働の促進という協働の管理論から出発し、次にさまざまな職務の規定をそのグループ化＝部門化、およびそれら部門の相互の関係づけという組織構造論を加え、さらに外部環境の変動に伴って、企業の環境適応を図る経営戦略論を生み、今日ではこれら3つの領域が相互に関連を持ちながら、並存しています。</p> <p>このような拡大にともなって組織構造論や経営戦略論がそれぞれ独自の領域として扱われるようになると、これら3つの領域を広く包括する広義の経営管理論とは区別される形で、人間協働の促進に焦点を合わせた狭義管理論が収斂してきました。</p> <p>この科目では、人が、個人として仕事をするのではなく、複数の人々が協力して仕事をする協働行為へ参加し、協働目標を設定し、その目標達成に向けて努力するのはなぜかを考え、また協働行為を促進するためにどのような技法が開発されているか、協働行為の理論と応用を中心に講義し、最後にこのような狭義の管理論と経営戦略論、組織構造論との関連について説明します。学習の目標は、基本的な内容をしっかり理解することにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 1 科学的管理法と伝統的モデル 2 経済的刺激と集権的管理 3 ホーソン実験と人間関係モデル</p> <p>(後期) 4 動機づけ理論と参加的管理 5 環境変化と人的資源管理モデル 6 意思決定論と目標管理 7 経営管理の総合的理解に向けて</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期はレポート（400字詰め5枚程度）、後期は試験を課し、両者を総合して成績を評価する。したがって、後期の試験だけでは単位の取得は困難である。なお、出欠状況を評価に加味することがある。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適宜指示する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>伊藤淳巳・西門正巳・亀田速穂（共著）『現代経営学の生成発展』（白桃書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商学総論	01	通 期	4単位	中 田 善 啓
	02	通 期	4単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業が行っている取引を商学の観点から説明する。これまでは商学は流通が中心であったが、市場形成活動を中心に視点を拡大して、部品供給企業、製造企業、流通企業、消費者の取引をみていく。</p> <p>取引の観点からみると、企業は市場の懸隔を架橋している。これは市場を形成していることを意味する。市場形成活動は企業と顧客の取引を媒介する。そのために企業は上流市場と下流市場で取引ネットワークを構築する。企業は取引を効率的に行うために、他企業と統合だけでなくアウトソーシング、提携を通じてネットワーク化を図っている。さらに、市場形成戦略を見ていく。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商学と取引 2. 市場形成 3. 商業取引の特色 4. 仲介企業 5. ネットワーキング 6. 参入戦略 7. 間接戦略 8. 攻撃戦略と防御戦略 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末テストを中心に成績を評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中田善啓著『マーケティングの進化』同文館 1998年 中田善啓著『マーケティング戦略と競争』同文館 1992年 中田善啓著『マーケティングと組織間関係』同文館 1986年 テドロウ『マス・マーケティング史』（ミネルヴァ書房） 授業中のトピックについてその都度参考書、資料を紹介したい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中田善啓著『新しいマーケティングの分析』同文館 2002年秋出版予定</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営情報論		秋学期集中	4 単位	佐々木 宏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>産業の情報化と情報の産業化が急速に進展しているなかで、各企業はコンピュータをベースにした経営情報システムをどのように構築しているのだろうか。本講座では、情報システムと企業経営との関わりについて、さまざまな視点から学習する。講義はすべてプロジェクター投影により行う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】</p> <p>①経営情報システムの構造 ②経営情報システムの歴史 ③情報と意思決定 ④意思決定支援システム</p> <p>【後期】</p> <p>⑤経営戦略 ⑥戦略情報システム ⑦情報技術の動向 ⑧経営情報システムの構築手法 ⑨トピックス：サプライ・チェーン・マネジメント、IT革命など</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期、後期とも試験。両方とも受験しないと評価はX。 これに平常点を加味して最終評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>寺本義也『ネットワーク・パワー』NTT出版 浅田孝幸編著『IT経営の理論と実際』東京経済情報出版</p>			
<p>[教科書]</p> <p>佐々木宏『新版 図解 経営情報システム』同文館</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
会計学原理		春学期集中	4 単位	リョウダ 徐 龍 達
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>簿記会計が、どのような過程をへて発展してきたか、近代的な損益計算の考え方が、どのようにして、形成されてきたか、などについて考証しながら、期間損益計算の特徴をやさしく解説する。会計理論はこれまで、静態論から動態論へ、さらに資金論として展開されてきたが、これらの考え方を学ぶとともに、国際会計の動向など、今後の会計理論の展望を模索してみたい。 この科目は、簿記Ⅰの知識が必要である。簿記Ⅰを履修済みかまたは、本年度から同時に履修することが強く要請される。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>〈前期〉</p> <p>① 簿記会計研究の意義 ② 財産法的貸借対照表の生成発展 ③ 静的貸借対照表論の前半</p> <p>〈後期〉</p> <p>④ 静的貸借対照表論の後半 ⑤ 動的貸借対照表論 ⑥ 動的貸借対照表論の批判 (時間が許せば、資金会計論にも言及する)</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末にテストを行い、年度末テストと総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>五十嵐邦正 『静的貸借対照表の研究』 (森山書店) 安藤英義 『新版商法会計制度論』 (白桃書房)</p> <p>あとは必要に応じて授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>徐龍達(著)『ドイツ会計学』改訂増補版 (KBS社、1997年刊)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
財 務 諸 表 論		秋学期集中	4単位	チヨン ジェ ムン 全 在 紋
〔講義概要・学習目標〕 〈講義概要〉 企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっている。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成された、いわば企業の〈証言〉である。企業にとってこわいのは、虚偽の証言が発覚したときに受ける懲罰だけである。だから、ウソがばれないように巧妙に偽証している可能性も大いにある。財務諸表はいつたい、どこまでが真実で、どこまでが企業エゴの発露なのか。それを見分ける目を養う。 〈学習目標〉 ① 商業簿記の学習内容を基礎として、株式会社の資本会計を理解する。 ② 財務会計における慣習・判断の基礎(会計公準・会計原則)を理解する。 ③ 3年次以降に履修する経営学部専門科目の基礎となるべき本講義の役割を踏まえつつ、制度会計における損益計算論・貸借対照表論の概要を理解する。	〔講義計画〕 ① オリエンテーション(1回) ② 会計必要論(戦略経営・節税効果等)(1回) ③ 計算書類論(AV使用)(2回) ④ 制度会計論(2回) ⑤ 会計公準論(2回) ⑥ 損益基準論(2回) ⑦ 棚卸会計論(2回) ⑧ 固定資産論(2回) ⑨ 負債会計論(2回) ⑩ 資本会計論(2回) ⑪ 経営分析論(2回) ⑫ 会計言語論(4回)			
〔成績評価の方法〕 原則として、レポート(期間中1回)と筆記試験(年度末1回)との総合点で評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験2級・1級合格者には、別途加点評価する。	〔参考文献〕 ① 武田隆二(著) 『会計学一般教程』(第2版) 中央経済社 ② 飯野利夫(著) 『財務会計論』(三訂版) 同文館			
〔教科書〕 永野則雄(著) 『ケースブック 会計学入門』 新世社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学原理		秋学期集中	4単位	谷 口 照 三
〔講義概要・学習目標〕 経営学は、19世紀末に生成し、20世紀に成熟化の道を行ってきた。その時代の「時代の課題」に応え、経営学は高度に発展した。そこには多くの課題が横たわっていたが、とりわけ「生産効率の向上」、「人間と経営の良好な関係の構築」、「社会と経営の良好な関係の構築」、「地球環境と経営の良好な関係の構築」が今日までの経営学にとっての応答すべき課題であった、と言ってよい。もちろん、それぞれのテーマの核に「提供すべき財・サービスである事業」の問題があることを忘れてはならない。「生産効率の向上」は、経営学生成の契機であり、1960年代まで最も重要な課題であった。「人間と経営の良好な関係の構築」、「社会と経営の良好な関係の構築」は、1970年代に浮上したのであるが、今日まで依然として重要な問題となっている。「地球環境と経営の良好な関係の構築」は、1990年代に入り、衝撃を持って受けとめられている課題である。21世紀にあっては、これらの課題が「事業の問題」を軸に重層化してくる。この「重層化した課題」に、如何に応えることが出来るか。21世紀における経営学の可能性は、ここにかかっている。 この講義では、上述の各テーマを中心に、20世紀における経営学の発展とその維新について検討し、その上で21世紀の経営学の新しい課題と新展開の可能性を展望してみたい。	〔講義計画〕 Ⅰ. 緒言 — 経営学とは — 1. 経営学に関する世間のイメージ 2. アメリカ経営学とドイツ経営学 3. 協働の学としての経営学 Ⅱ. 20世紀と経営学の発展 1. 商業の発達と企業の成立 2. 「大量生産と大量消費の時代」としての20世紀 3. 企業の大規模化と経営学の発展 Ⅲ. 時代の大転換と経営学の維新 1. 20世紀及び企業の大規模化の光と影 2. 企業の事業経営に課せられた課題とそれへの応答 3. 経営学の伝統的テーマと現代的テーマ Ⅳ. 21世紀の特徴と経営の課題及びその新展開に向けて 1. 20世紀と21世紀のニーズの違い 2. 21世紀の課題と新しい協働の創造 3. 新しい協働の倫理と論理 — 21世紀における経営学の可能性とその基盤 — Ⅴ. 結言 — 新しい時代と経営学を学ぶ意味 — 1. 「閉ざされた協働の世界」から「開かれた協働の世界」へ 2. 「協働の学」の可能性 3. 経営学の目指すところとそれを学ぶことの意味			
〔成績評価の方法〕 不定期小テスト、レポートおよび秋学期末試験の総合評価。	〔参考文献〕 必要に応じて適宜指示する。			
〔教科書〕 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学史		秋学期集中	4単位	野田俊範
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学は、ドイツとアメリカにおいて今世紀初頭に成立した若い学問である。そしてその経営学は、ドイツ、アメリカ、および日本においてめざましい発展を遂げてきたのである。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響をうけてきたことは事実である。</p> <p>本講義では、そのドイツ経営学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。その際、学説と歴史的・社会的背景との関連を明らかにすることを重視する。いかなる学説も、その社会的・経済的・文化的背景による制約から逃れることはできないからである。</p> <p>ドイツ経営学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>I. 経営学史の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学史研究の意義 2. ドイツにおける経営学史研究 3. 日本における経営学史研究 4. 経営学史研究の課題 <p>II. ドイツ経営学の歴史</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 私経済学の成立 2. 経営経済学の確立 3. 経営経済学の展開 4. 共同決定と経営経済学 5. 批判的経営学の系譜 <p>III. 現代のドイツ経営学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ経営学の意義 2. ドイツ経営学の展望 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験により評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>木谷勤/望田幸男編著『ドイツ近代史』ミネルヴァ書房 1992年。 大橋昭一編著『現代のドイツ経営学』税務経理協会 1991年。 海道ノブチカ/深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社 1994年。 その他、必要に応じて適宜指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

経営
~01

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
組織倫理学		秋学期集中	4単位	谷口照三
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間には能力の限界がある。古くからわれわれ人間は、かかるといって、限界を克服するために、他人と協力して働く。他人と協力して働くためには、組織が成立する必要がある。組織が成立するということは、多様な個人が互いに協力し、互いに支え合っている状態を指す。組織が成立するということは、多様な個人が互いに協力し、互いに支え合っている状態を指す。組織が成立するということは、多様な個人が互いに協力し、互いに支え合っている状態を指す。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 現代社会と組織倫理学 II. 組織の本質と組織の価値的側面 III. 現代社会を代表する組織としての企業と倫理的問題状況 IV. 倫理学と応用倫理学 — 組織と企業に関する倫理的問題状況への応答とその限界 — V. 企業倫理学の展開 VI. 環境倫理学の展開 VII. 組織倫理学の展開の必要性とその基本的視点 VIII. 組織と「信頼性の構造」 IX. 組織の責任と組織道徳の創造 X. 21世紀と組織倫理学の可能性 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>課題レポート（講義内容の要点の整理と各自の意見）、および学年末試験の結果を総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>開講時に参考文献リストを配布する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営史		春学期集中	4 単位	長谷川 彰
[講義概要・学習目標] 「経営史学」という学問は、比較的新しい領域に属する学問分野であるが、近年におけるその発展は目をみはるものがある。本年度における講義は、まず経営史学の歴史的展開をはじめとして、企業者史学等の学説史を紹介していき、続いて、具体的事例としては、日本の経営史について検討することにした。徳川時代、つまり前近代社会から近代社会における経営活動を中心とした歴史的過程の分析が考察の対象となる。	[講義計画] 1・経営史学の成立 2・経営史学の展開 3・企業者史学の展開 4・前近代社会の経営史 5・近代社会の経営史 6・現代社会の経営史			
[成績評価の方法] 試験を中心に行う。	[参考文献] 米川伸一『経営史学』東洋経済新報社、1973年			
[教科書] 藤田貞一郎、他著『日本商業史』有斐閣、1978年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
企業論		秋学期集中	4 単位	稲別正晴
[講義概要・学習目標] 企業社会といわれるように、企業は生産や流通などの経済活動の中で大きな役割を担っている。今日の企業の典型は株式が公開されている株式会社であり、一般に会社の所有者である株主と経営者が分離している「経営者企業」である。したがって、今日の企業を理解するためには企業形態、企業目的、経営者と株主との関係、経営者の役割、企業組織、企業と市場などの問題を明らかにする必要がある。また、今日の企業経営のグローバルな性格を考えるならば、国際的視点を抜きにしてはその理解は不可能である。 わが国企業はバブル崩壊後の激変する環境の中で構造改革を迫られているが、克服すべき課題は依然としてきわめて大きい。かつて、わが国企業の強みとされていた多くの要因がいまや負の遺産として企業の大きな負担となっている。したがって、日本企業システムの何を残し、何を変革あるいは捨てるべきかが問われねばならない。 本講義では、改革を迫られている日本企業の諸課題をも視野に入れて、現代企業の諸問題を論じる。 受講生諸君が積極的に意見を表明することを期待している。	[講義計画] 1. 序論—企業と市場 2. 企業形態 3. 企業目的 4. 経営者企業の成立 5. プリンシパル=エージェント関係 6. コーポレート・ガバナンス 7. 取引費用の理論 8. 企業組織 9. 企業成長 10. 企業戦略 11. 企業経営と環境問題 12. 日本の企業システム 13. 日本企業の海外進出			
[成績評価の方法] 試験の成績にレポートの評価を加味する。	[参考文献] 教科書に記載、なお、新しい参考文献は講義時に指示。			
[教科書] 稲別正晴『企業の基礎理論』法律文化社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営財務論		春学期集中	4 単位	今 木 秀 和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業はさまざまな経営資源を必要としている。人、物、金、情報などの資源がそれである。このうち金という経営資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。</p> <p>金は、経営財務論では資本といわれる。企業は、必要な資本を内部の源泉からと外部の市場から調達する。調達した資本はさまざまな資産に運用される。運用の成果は利益として把握され、一定の方針に基づいて処分される。資本の調達、運用、利益処分がこの講義の主たる問題領域である。</p> <p>経営財務の基礎知識の習得が、学習目標である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>資本の調達 資本コスト 財務計画と財務統制 運転資本管理 資金管理と資金分析 投資の決定 配当政策 企業評価</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績は学期末テストに基づいてつける。小テストも行う予定。レポートの提出および出席を加点要素として評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>杉井弘和編著『改訂版 企業財務論』税務経理協会 井手正介・高橋文郎共著『経営財務入門』日本経済新聞社 村松司叙著『財務管理入門 増補版』同文館</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教材として以下のものを使う。</p> <p>後藤幸男・田淵進編著『新経営財務論講義』中央経済社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営労務論		春学期集中	4 単位	面 地 豊
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間の労働が、経営と結びつくことと、その問題がどの程度か、を説明する。そのうえで、経営の側から見ると、労働と人間の側から見ると、このことを通じて、経営労働の人間の問題をどう捉えるべきかを学習の目標とする。経営労務論は、結局、労働者問題をとり扱うための知識が理解されること、目標達成のため。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義は、基礎論と各論に分けて行う。基礎論には、労務論、労務問題が中心で、その内容は労務論を中心とする。</p> <p>各論には、条件別、経営労務の側面、労務問題と説明し、労務、賃金、労働時間、労働の法的保障、等々、多数の点について説明する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その程度は指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>著者、『経営社会と労務』千倉書房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生産管理論		春学期集中	4単位	鬼塚 光政
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p><概要> 産業革命期の英・仏国に芽生え、19世紀末から米国で本格的に展開し、1970年代以降日本で新たに展開した「近代的生産管理」の生成・発展の過程を経済、社会、技術等の背景を踏まえて段階的に跡付け、各段階の代表的な生産管理方式の構造、特徴、意義と限界を講述する。この場合始めに、市場経済体制下の企業の生産管理の基本的性格、その分析の視点と分析に用いる基礎概念を明確にした上で、主題の生産管理の生成・発展史の考察に入る。</p> <p><目標></p> <p>(1) 生産管理の基本的性格と分析視角 (2) 生産管理システムの分析に必要な基礎概念 (3) 各段階の代表的生産管理方式の構造、特徴ならびに意義と限界 (4) 経営工学の関連諸手法とそれらの生産管理への適用 (5) 生産管理の発展と社会・自然との関係</p>		[講義計画]	<p>(1) オリエンテーション (1回)</p> <p>(2) 生産管理の基本的性格と分析視角 (6回)</p> <p>(3) 中間試験 (1回)</p> <p>(4) 生産管理の生成と発展 (18回)</p>	
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、中間試験・期末試験計2回の評価、レポートの提出状況等を総合して評価。</p>		[参考文献]	追って指示する	
<p>[教科書]</p> <p>追って指示する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マーケティング論		通 期	4単位	中 田 善 啓
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業が行っているマーケティングを取引の観点から分析する。制度の進化のメカニズムを明らかにし、ダイナミズムに力点をおきたい。取引活動の目的は市場を形成することによって、企業内、企業間、消費者間の取引の開始から終結までの活動をコントロールして、需要と供給のマッチングを達成することである。具体的にはチャネル、製品、価格、販売促進を中心に企業戦略と関連させて説明する。同時に、これらの戦略はダイナミックに変化していくので、その進化のプロセスが重要である。</p>		[講義計画]	<p>1. マーケティングとは何か</p> <p>2. マーケティングと取引</p> <p>3. 大量生産システムとマーケティング</p> <p>4. 知識・情報社会のマーケティング</p> <p>5. マーケティング・システムの進化</p> <p>6. 技術選択とその進化</p> <p>7. 流行のメカニズム</p>	
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末テストを中心に成績を評価する。</p>		[参考文献]	<p>中田善啓著『新しいマーケティングの分析』 同文館 2002年秋出版予定</p> <p>中田善啓著『マーケティング戦略と競争』 同文館1992年</p> <p>中田善啓著『マーケティングと組織間関係』 同文館 1986年</p> <p>テドロウ『マス・マーケティング史』(ミネルヴァ書房)</p> <p>授業中のトピックについてその都度参考書、資料を紹介したい。</p>	
<p>[教科書]</p> <p>中田善啓著『マーケティングの進化』 同文館 1998年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
流 通 論		秋学期集中	4 単位	岸 本 裕 一
<p>[講義概要・学習目標] 流通とは、生産と消費という2つの経済活動の間に存在する懸隔（隔たり）を架橋する経済活動である。流通論は、この流通を分析対象として、これを国民経済的視点から論ずるものである。そのうえで、近年特に、大切になってきているのは、地球的規模での流通をみる目である。そこで、この講義の学習目標を要約していえば、流通の機能と機構とを、建学の精神にいう世界の市民としての視点から理解することということになる。</p> <p>さて、講義内容は、講義計画に示すように多岐にわたるが、その一部を紹介する。2000年には、わが国の小売業のあり方を規定してきた大規模小売店舗法が廃止されたことから、わが国の小売業はまさに大変革の時代を迎えている。このような状況を踏まえて、小売業の先進国アメリカの実状と対比しながら、新しい法的枠組みである「街づくり3法」のもとでのわが国小売業の再編の方向を探る。また、販売促進の1つであるテレビCMは、現代社会を映す鏡であるともいわれる。そこでは、ポピュラーソングの新曲がタイアップされ拔群な販売促進効果を生んでいると同時に、その新曲そのものの販売促進にもなっているという状況がある。CMのビデオやCD等を駆使しながら、わが国独特のこの状況を明らかにしていく。その他、食品流通の最新事情など、リアルタイムに動くもの他、流通研究の理論などのについても講義する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 0. 世界経済のトレンドと流通 1. 流通論の範囲と対象 2. 流通の分析理論と分析手法 3. 流通研究の歴史 4. 流通をめぐる環境変化と流通へのインパクト 1) インターネット 2) グローバル化 3) 規制緩和 4) 流通関連法の改正 5. 小売流通をめぐる諸問題</p> <p><後期> 6. 卸売流通をめぐる諸問題 7. 市場調査の方法と実際 8. サービス流通（やすらぎ産業）の展開 9. 広告とポピュラーソング 10. 今後の流通の展望 ――地域経済と世界経済――</p>			
<p>[成績評価の方法] 定期試験と平常点との総合評価により行う。</p>	<p>[参考文献] 進行にしたがって指示する。</p>			
<p>[教科書] 1. 岸本裕一・生明俊雄著『J-POPマーケティング』中央経済社、2001年。 2. 岸本裕一・青谷実知代著『パーモントカレーとポッキー―食品産業マーケティングの深層』農林統計協会、2000年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
証 券 論		通 期	4 単位	吉 川 真 裕
<p>[講義概要・学習目標] この授業では証券市場の仕組みを説明した上で、受講者自身が将来いかにして証券市場を活用していくのかという実践的な課題への指針を獲得してもらうことを目標とする。個人による資産運用がますます求められていく中で、いかにして証券市場を活用し、個人の生活を向上させるのかということは重要な課題である。どの株を買えば儲かるのかということではなく、どのようにすれば有利に資産を増やしていくことができるのかということを考える機会にして欲しい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資リターンのとらえ方 ・株式投資のリターン ・企業価値の評価尺度 ・証券投資のリスク ・株式投資戦略 ・ポートフォリオで考える ・資産ミックスで運用する ・投資信託を活用する ・デリバティブとその組み込み商品 ・国際投資戦略 			
<p>[成績評価の方法] 試験期間に行う2度の試験（持ち込み不可）による。 自分の言葉で答えられるかどうかを重視する。</p>	<p>[参考文献] 大和総研 情報技術センター数理科学研究室『日本人のためのお金教科書』翔泳社、2001年 日本証券経済研究所（編）『詳説 現代日本の証券市場 2002年版』日本証券経済研究所、2002年 証券広報センター『証券市場 2001』日本経済新聞社、2001年</p>			
<p>[教科書] 井手正介・高橋文郎『証券投資入門』日本経済新聞社、2001年、¥2500</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
保険論		秋学期集中	4単位	武田 久義
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ときおり、「保険のつもりで**を履修登録した」という言葉を耳にする。この場合の「保険」という語の使用を完全に間違いということとはできないが、保険理論からみればきわめておかしい。本来、保険は、危険に対処する手段の一つである。危険に対する科学的管理法は、一般にリスクマネジメントと呼ばれている。したがって保険もまた、広範なリスクマネジメントとの関連のなかで理解される必要がある。現在の社会では、保険が様々なリスクマネジメントのうちで中心的な役割を占めているために、リスクマネジメントの学習においても保険の学習にウエイトがおかれる。</p> <p>ところで、日本の保険制度は、現在大きな転換期にある。事実、これまでの日本では考えられなかったような、保険に関連する様々なできごとが起こっている。それは、ただ保険に限らず日本が歴史的な転換期にあるからであろう。このような変化は、基本的には、情報社会への変化のなかで把握されるものである。</p> <p>講義では、そのような変化と将来における保険、そしてひろく保障制度のあり方についても、考えてみたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>主な講義内容は、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> *リスクとリスクマネジメントについて。 *生活の中の危険と保険について。 *危険の意味、危険対策等について。 *保険の意義と役割について。 *保険の組織と保険制度について。 *保険の契約について。 *保険と保障。 *代表的な保険についての説明。生命保険、自動車保険、火災保険、介護保険など。 *保険の歴史と保障制度の将来。 <p>なお、レポートを頻繁に提出してもらうので、そのつもりで受講していただきたい。「保険のつもり」でこの科目を履修すれば、後悔するかもしれない。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末テストとレポートによる。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>保険に関連する書籍は、基本的に参考になる。強いてあげるならば、次のものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> *武田久義・外、『講案保険総論』、法律文化社 *前川寛、『現代保険入門』、中央経済社 		
<p>[教科書]</p> <p>プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際経営論		通 期	4単位	太田 一 朗
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>世界経済は今、激動の時代を迎えている。1989年の東西冷戦終結に続くソ連邦、東欧圏の崩壊、さらには近年の中国を始めとするアジア経済の台頭により、世界経済はメガコンペティション（大競争）の時代に突入し、全ての産業において深刻な需給ギャップを生じている。さらにはITバブルの崩壊、米国の「同時多発テロ」が米国一国のみならず、世界を不況に巻き込もうとしている。このような難しい時期、企業は業種、規模を問わず、世界を視野に入れ戦略を立てなければならない。このコースでは主として欧米及び日本企業の国際経営をめぐる諸問題について考えてみたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期>グローバル企業全般について</p> <p><後期>日、米、欧のグローバル企業について</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テストによる</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>藤本光男・大西勝明著「グローバル企業の経営戦略」（ミネルヴァ書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際マーケティング論		通 期	4 単位	太 田 一 朗
[講義概要・学習目標] 世界経済は今、激動の時代を迎えている。1989年の東西冷戦終結に続くソ連邦、東欧圏の崩壊、さらには近年の中国を始めとするアジア経済の台頭により、世界経済はメガコンペティション（大競争）の時代に突入し、全ての産業において深刻な需給ギャップを生じている。さらにはITバブルの崩壊、米国の「同時多発テロ」が米国一国のみならず、世界を不況に巻き込もうとしている。このような難しい時期、企業は業種、規模を問わず、世界を視野に入れた戦略を立てなければならない。 このコースでは主として、まず国際マーケティングの基本問題、国際マーケティング戦略、国際マーケティングの実態、そして国際マーケティングの展望などについて勉強する。尚、マーケティングの知識がなくても受講できるよう、専門用語などはその都度説明する。	[講義計画] ＜前期＞ マーケティングの基礎 ＜後期＞ 国際マーケティングの実態			
[成績評価の方法] テストによる	[参考文献]			
[教科書] 追って通知する（プリントを用意する予定）				

経営
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営・商学特講（インターンシップ）		集中コース	2 単位	武 田 久 義
[講義概要・学習目標] インターンシップとは、学生が在学中に企業などにおいて研修的な就業体験をするプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることが目的としている。 なお、当科目については、4月に実施される応募・選考の手続きをしていない場合には、履修登録ができないので注意すること。	[講義計画] <u>プログラムの概要</u> (1) 事前研修 ①プログラムのガイダンス ②研修企業・団体等の事前学習 ③ビジネスマナーの指導 ④研修要領の説明と報告書の作成指導 (2) 研修期間 夏期休暇中（60時間以上、2週間の予定） (3) 事後研修 研修結果の報告			
[成績評価の方法] 事前研修、事後研修、研修先からの評価、研修報告書などを含めて総合的に評価する。	[参考文献]			
[教科書]				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
経営・商学特講 日本の経営と文化		秋学期	2単位	三 宅 亨
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>With the coming of the new century, the world is changing more rapidly than ever. Steadily advancing IT revolution is changing our society, industry and lifestyle. In addition, ongoing globalization requires communication and cooperation across cultures among other things.</p> <p>In this class a wide range of interesting topics will be taken up for those who aspire to be <i>citizens of the world</i>. The class will be taught by different faculty members each week, and conducted <i>entirely in English</i>. Students are encouraged to participate in lively discussions.</p>	<p>[講義計画]</p> <p>Tentative List of Topics to Be Presented</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Globalization and English 2. Japanese Agriculture 3. Features of Japanese Corporate Culture 4. Japanese Retailing Industry 5. Banking Industry in Japan 6. Insurance Business in Japan <p>...</p> <p>The final list will be distributed at the beginning of the fall semester.</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Strict attendance is required. In place of the final examination, the students are asked to submit papers on several topics presented during the course.</p>	<p>[参考文献]</p> <p>To be announced in class.</p>			
<p>[教科書]</p> <p>No textbooks are used in this course. Instead, h provided in class.</p>				

経営
~01

《インテグレーション科目》

< 99 B生対象 >

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ		
日本経営論研究 (旧経営・商学特講 (日本経営論研究))		通 期	4単位	鬼 塚 光 政		
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1980年代まで優れたパフォーマンスで国際的に脚光を浴びた「日本の経営」諸慣行の多くは、国内で90年代以降のグローバリゼーションの急速な進展と長期構造不況の中でかつての輝きを失ってしまった。またそれに伴い日本企業はグローバリゼーションへの戦略的対応を迫られ、経営の本格的な多国籍展開を図っており、この傾向は奔流のような勢いで強まっている。</p> <p>本研究では、このような大きな状況変化を踏まえて、グローバリゼーションを視座に据えて、日本企業は経営管理の主要な各側面でどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているか等について、本研究科教員による講義に加えて、経営の多国籍展開を積極的に行っている先進企業の第一線で活躍中の実務家による事例研究を大幅に採り入れ、理論と実践の両面から迫ることにしている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><春学期> オリエンテーション <秋学期> 調達戦略</p> <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; border:none;"> 経営戦略 異文化経営戦略 税務戦略 財務戦略 </td> <td style="width:50%; border:none;"> 生産戦略 マーケティング戦略 原価管理戦略 競合国企業の経営戦略 </td> </tr> </table> <p>(以上の計画は多少変更される場合がある)</p>				経営戦略 異文化経営戦略 税務戦略 財務戦略	生産戦略 マーケティング戦略 原価管理戦略 競合国企業の経営戦略
経営戦略 異文化経営戦略 税務戦略 財務戦略	生産戦略 マーケティング戦略 原価管理戦略 競合国企業の経営戦略					
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート内容、発言状況、出席状況等を総合的に勘案する。 レポート提出は春学期末と秋学期末に各1回計2回</p>	<p>[参考文献]</p> <p>各講師氏が指示</p>					
<p>[教科書]</p> <p>必要に応じ各講師が指示</p>						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	01 02 03	秋学期 秋学期 秋学期	2単位 2単位 2単位	榎本光世
[講義概要・学習目標] Visual Basic を使って、初歩的なプログラムを作成できるようになること。	[講義計画] 1. 講義概要と受講上の注意 2. VB事始め 3. コマンドボタンとPRINT文の詳細 4. 算術演算 5. キーボードからのデータの受け取り 6. 判断分岐 (その1) 7. 判断分岐 (その2) 8. 繰り返し処理 (その1) 9. 繰り返し処理 (その2) 10. 変数の配列 以上の内容は変更される場合もある。			
[成績評価の方法] 出席率、宿題の提出率、試験の成績、受講態度などによって総合的に評価する。	[参考文献] 未定。 開講時に指定する。			
[教科書] 未定。 開講時に指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	04 05	秋学期 秋学期	2単位 2単位	大嶋 耕一
[講義概要・学習目標] プログラミング言語にはさまざまなものがあり、適材適所で使用されている。本講義では、その中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。 BASIC言語といえば、Windows環境ではVisual Basicが最も有名である。これは、JISで規定されているBASIC言語をMicrosoft社が独自に言語拡張し、Windows環境に適合させたものであり、アプリケーションの開発環境としては優れているが、初心者にはプログラムの全体像がつかみにくい。 そこで、本講義では、JIS BASICに最も近い、BASICインタプリタを用い、言語の習得よりはむしろ、プログラミングの本質を学習することに重点を置くことにする。すなわち、プログラムとは何か、ユーザインターフェースの考え方、コンピュータにおけるデータの扱い等について、発見学習的に学ぶ。 授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う。 なお、実習室のコンピュータでVisual Basicを使える場合は、後半にWindowsのVisualアプリケーションについても学ぶことにする。	[講義計画] 第1回 ガイダンス、BASIC言語とは 第2回以後 (自修方式) 必須修得内容 (進度順) 以下は、全員が学習し、指示された提出物を提出する。 1. BASICインタプリタによるプログラム作成の実例 2. 最も基本的なコマンド (INPUT、PRINT、代入) と変数 3. プログラムの編集、IF文、GOTO文、条件式 4. 例題: 数値関数、文字関数、文字処理、エラーチェック 5. 例題: メニュー構造を持ったプログラム、サブプログラム 追加修得内容 以下は、進度に応じて追加的に学習する。 6. 構造化定理、繰り返し構造 7. 例題: ファイル入出力 なお、Visual Basicを使用できる場合には、上記7に代えてVisual Basicを用いた、Windowsスタイルのプログラミングを学習する。			
[成績評価の方法] 出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する。	[参考文献] 第1回の授業時に紹介する。			
[教科書] 市販の教科書は使用せず、プリントでテキストを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	06 07	秋学期 秋学期	2単位 2単位	初瀬慎一
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>PCの基礎を習得し、その次のステップとして学ぶ科目がプログラミング論Aである。</p> <p>コンピュータ(PC)は、人間がすべての操作手順を指示することによりはじめて機能するものである。その操作手順を作成することを「プログラミング」と呼ぶ。プログラミング論Aにおいては、Windowsシステムの標準的なプログラミング言語である「Visual Basic」言語を用いてプログラミングの基礎を習得することを目標とする。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Visual Basicの基礎 2. 簡単なプログラム 3. アルゴリズムの基礎 4. プログラムの作成 5. プログラムの検査 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席率、課題の提出率、試験の成績、受講態度などを総合して判定する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>桃山学院大学計算機センター(編)『ユーザーズガイド』</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	01 02 03	春学期 春学期 春学期	2単位 2単位 2単位	榎本光世
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーボードに慣れ、ウィンドウズやパソコンの基本的な操作を習得する。 2. インターネットの利用法を習得する。 3. ワード、エクセルといった一般的なアプリケーションの使用法を習得する。 	<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. パソコンの仕組み 3. ブラウザー 4. 電子メール 5. WORDの基本(その1) 6. WORDの基本(その2) 7. WORDの基本(その3) 8. EXCELの基本(その1) 9. EXCELの基本(その2) 10. EXCELの基本(その3) <p>以上の内容は変更されることもある。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席率、宿題の提出率、試験の成績、受講態度などによって総合的に評価する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>未定。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』。</p>	<p>開講時に指定する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	04 05	春学期 春学期	2単位 2単位	大 嶋 耕 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>かつてマニアのおもちゃでしかなかったパソコンが、今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になった。この授業では、コンピュータを学習、研究の道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。</p> <p>内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。</p> <p>これらの内容は、いずれもソフトウェアに習熟し、手足のように使いこなせるようになることが大切である。しかしながら半期の授業だけでこれらすべてに習熟することはできない。したがって課外での十分な学習（練習）を前提とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第1回 ガイダンス、Windows の基本的な操作（マウスを中心に）</p> <p>第2回 フロッピーディスクの扱い、テキストエディタを使ったキーボード操作、ファイルとフォルダの扱い 注）Windows（DOS/V）フォーマット済みフロッピーディスクを用意しておくこと</p> <p>第3回 テキストエディタを使った日本語入力・編集、クリップボードを利用した編集処理、その他基本的な機能</p> <p>第4回 ワープロ入門（1）：文書の書式設定と基本的な文字属性</p> <p>第5回 Network 入門（1）：LANとインターネット、E-mailの使い方</p> <p>第6回 ワープロ入門（2）：作表、レイアウト、文書作成の演習</p> <p>第7回 Network 入門（2）：WWWの仕組み、WWWによる情報の検索</p> <p>第8回 表計算入門（1）：文字・数値・式の入力、セルのコピー</p> <p>第9回 表計算入門（2）：表の体裁を整える</p> <p>第10回 グラフの作成、アプリケーションソフト間の連携</p> <p>第11回 表計算ソフト、ワープロに関する演習</p> <p>第12回～ 総合演習：Visual文書の作成（文書の構造化と画像の活用）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>桃山学院大学計算センター『ユーザーズガイド』 その他、授業時に適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>市販の教科書は使用せず、プリントでテキストを配布する。 注：桃山学院大学『ユーザーズガイド』は各自手に入れておくこと</p>				

経営
～01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	06 07	春学期 春学期	2単位 2単位	初 瀬 慎 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報化社会は非常に速いテンポで進化し、我々の生活にもさまざまな形で影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化、ネットワーク化に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会においては基礎的な技能として要求されている。</p> <p>授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的としてパソコンの実習を通して、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークやマルチメディアについて、インターネットの活用とそれに伴うセキュリティ対策等を学習する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルコンピュータ(パソコン)の概要 2. コンピュータの基本操作、キーボードレッスン 3. インターネットのしくみ 4. 電子メールとネチケット 5. インターネットによる情報発信 6. その他の情報活用法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席率、課題の提出率、試験の成績、受講態度などを総合して判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>桃山学院大学計算機センター(編)『ユーザーズガイド』</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論C	01	通 期	4 単位	芦 田 昌 也
[講義概要・学習目標] Fortran と C の 2 種類のプログラミング言語の講義と演習を通して、 <ul style="list-style-type: none"> • コンピュータのプログラミングに関する知識 • 問題解決の手順(アルゴリズム)を考案する能力 • Fortran と C のプログラミング言語の文法を身につける。 講義では、コンピュータプログラムで用いられる制御構造と、それらを用いてアルゴリズムを考案することに重点をおいて学習する。演習では、実際にプログラムを作成しながら、アルゴリズムやプログラミング言語の文法に関する理解を深める。	[講義計画] <ul style="list-style-type: none"> • アルゴリズムとプログラミング <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活における問題解決 2. アルゴリズムの記述と考案 3. コンピュータプログラムで利用される代表的な制御構造 • C 言語によるプログラミング <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準入出力 2. 変数の利用と四則演算 3. 条件文による処理の分岐 4. 一次元配列 5. 繰り返し処理 6. 関数の定義と利用 • 代表的なアルゴリズムと Fortran によるプログラミング <ol style="list-style-type: none"> 1. データの並べ換えのアルゴリズム 2. Fortran によるデータの並べ換えプログラムの実現 			
[成績評価の方法] 提出されたレポートにより評価する。レポートの課題は演習中に提示する。	[参考文献] <ul style="list-style-type: none"> • 結城 浩「C言語プログラミングレッスン入門編」ソフトバンク • 刀根 薫「FORTRAN77 基本+応用」培風館 			
[教科書] 指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論C	02	通 期	4 単位	竹 内 昭 浩
[講義概要・学習目標] ワークステーションの標準的OS (オペレーティング・システム) であるUNIXの入門とFORTRANおよびC言語とを用いて、プログラミングの基礎を学習する。	[講義計画] (前期) <ol style="list-style-type: none"> 1. UNIX入門 2. viエディタ入門 3. FORTRANでの簡単なプログラム 4. if文 5. do文 6. 配列 (後期) <ol style="list-style-type: none"> 7. ファイルの操作 8. 副プログラム 9. C言語での簡単なプログラム 10. 変数と算術 11. for文とwhile文 12. 関数 			
[成績評価の方法] 試験の結果と、提出してもらったレポートを加味して評価する。	[参考文献] 坂本 文 (著)「たのしいUNIX」(アスキー出版) 浦 昭三 (著)「FORTRAN 77入門」(培風館) カーニソ・リッチー (著)「プログラミング言語C 第2版」(共立出版)			
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論D	01 02	通 期 通 期	4 単位 4 単位	三 木 大 史
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>Windows上でのアプリケーションプログラムを実際に作成することによって、プログラミングの基本とコンピュータに対する本質的な理解を深める。それによって広範なコンピュータの活用能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>Windows上のプログラミングの特徴は、ユーザーとコンピュータとのやりとりのために画面に様々な部品のレイアウトを決め、マウスを動かしてクリックしたりドラッグしたり、キーボードから入力があったりするたびに処理が行われるところにあり、このような特徴をもつプログラミングをイベント駆動型のビジュアルプログラミングという。</p> <p>プログラミングの統合開発環境としてDelphiを使用する。これは教育用に開発されたPascalというプログラミング言語を採用しており、プログラミングの作法を学ぶのに最適であり、またWindowsプログラミングに対する数々の優れた特徴を持つ。</p> <p>受講にあたって、プログラミングに関する知識は特に必要ないが、「プログラミング論B」終了程度のコンピュータ使用経験が必要である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(1) Delphiの統合開発環境の概要、文字を表示するアプリケーションソフトウェアの作成</p> <p>(2) 数値と文字の演算をするアプリケーションソフトウェアの作成(変数の型)</p> <p>(3) チェックボックスとラジオボタン (if文)</p> <p>(4) リストボックスとコンボボックス (while文, for文)</p> <p>(5) 簡単な集計表の作成 (配列)</p> <p>(6) エラーメッセージとエラーへの対処, 時刻・日付の表示</p> <p>(7) ダイアログボックスとメッセージボックス</p> <p>(8) オープンダイアログとセーブダイアログ</p> <p>(9) メニュー, ツールバーのボタンの作成</p> <p>(10) テキストファイルを開き、または新規作成して編集でき、名前を付けて保存、または上書き保存できる簡易エディターの作成</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験は行わず、出席および課題レポートにより評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>村上宣寛(著)『やさしいDelphi』日刊工業新聞社</p> <p>矢沢久雄(著)『プログラムはなぜ動くのか』日経BP出版センター</p> <p>服部 誠(著)『Borland Delphi5オフィシャルコースウェア(基礎編)』アスキー</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
システム設計		春学期集中	4 単位	牧野 丹奈子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報化社会の今日、企業には新しい情報を次々と生み続けることが求められている。しかし、画期的な情報・知識を継続的に生み続けることは易しいことではない。企業は自らの組織構造や経営活動を常に見直ししながら改革することによって、はじめて、斬新な情報・知識を生み続けることができるのである。</p> <p>では、どのようにすれば、自らの組織構造や経営活動を見直し改革することができるのか。また、どのような組織構造や経営活動が望ましいのか。</p> <p>このような問題に対して、企業組織をひとつの“経営システム”とみなしながら取り組んでいくことが、本講義の学習目標である。</p> <p>つまりこの講義では、“情報化社会では、どのような経営システムをどのように設計すればよいのか”を、システム論を用いながら学習することになる。</p> <p>講義の進め方としては“聴く”だけでなく、共に“考える”ことを重視する。 (この講義では、コンピュータを使用しない。)</p>	<p>[講義計画]</p> <p>まずは、システム論の基礎から勉強しよう。</p> <p>続いて、情報・知識を生み続ける企業組織について考えよう。実例もできるだけ多くみていきたい。</p> <p>第一部. システム論の基礎知識 第二部. 経営組織の自己組織化 第三部. 個人自律化とシステム設計 第四部. 「関係性」と「場」</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験とレポートなどの総合評価によっておこなう。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度、参考文献を紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>追って知らせる。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
データベース論		春学期集中	4 単位	佐々木 宏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講座では、リレーショナル・データベースの基礎から応用までをじっくりと学習する。ソフトウェアはAccessを用いる。最終目標は、リレーショナル・データベースを理解し、画面・帳表の設計と簡単な応用プログラム（マクロ・実習）が中心となるが、それを補完するために次の講義を行う。</p> <p>①リレーショナル・データベースの概念と操作 ②データベースの設計 ③DOA（データ・オリエンテッド・アプローチ）の方法 ④企業の活用事例</p> <p>受講に際しては、以下を注意のこと。</p> <p>①パソコン実習室を常時利用するため、人数限定となる。プログラミング論と同様に事前申し込みが必要である。申し込みが許可されないと受講できない。</p> <p>②少なくとも、プログラミング論Bを履修済みであることが望ましい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>①リレーショナル・データベースの概要 ②リレーショナル・データベースの操作とSQL ③リレーショナル・データベースの設計 ④アプリケーション作成 ⑤VBAを用いたAccessデータベース・プログラミング ⑥WEBデータベース・プログラミング（ASPプログラミング）</p> <p>毎年、受講者のスキルによって進度が異なる。本年度も受講者の理解度を確かめながら、時間的・スキルの余裕があれば、以下を行うことにしたい。</p> <p>⑦CASEツール実習 ⑧VB（ビジュアル・ベーシック）からのAccessデータベース参照・更新処理プログラミング</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期、後期の2回のレポートに、出席状況等の平常点を加味して評価する。実習系なので、出席を重視する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>佐々木宏・三木大史他「インターネットと情報リテラシー」同文館</p>		
<p>[教科書]</p> <p>「ACCESS2000ステップバイステップ」日経BPソフトプレス ※学内の新システム移行に伴い、Accessのバージョンが上がる場合には別途指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営工学		春学期集中	4 単位	明 石 吉 三
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営工学は経営諸問題に対する科学的、数学的アプローチである。この分野は英国、米国を中心に軍事研究を発端に生まれた。その後、IE(Industrial Engineering)、オペレーションズリサーチ、経営科学として、経営諸問題の科学的接近法として発展してきた。</p> <p>本分野は方法論、数学的分析、計画手法、様々な分野理論が含まれ広範囲である。本講座では文科系学生諸君を前提に、経営工学アプローチの意義、手法、モデル化法を講義する。高度な数学的知識を必要としない講義にする予定である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>以下の内容を講義する予定である。</p> <p>(1) 経営工学とは (2) 数理計画法 a. 線形計画法 b. PERT手法 c. 近年の話題（ニューロコンヒューティング、遺伝的アルゴリズム） (3) 在庫管理論 (4) 品質管理論 (5) 予測手法 (6) 意思決定論</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート及び試験による総合評価</p>		<p>[参考文献]</p> <p>別途指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営基礎数学		通 期	4 単位	太 田 雅 晴
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営に関わる種々のオペレーショナルなレベルの業務、例えば、生産および物流計画・管理業務、マーケティング業務、人事および労務計画・管理業務などにおいて、意思決定を行う際、データ、情報をコンピュータを用いて分析しなくてはならない場面が多い。近年の情報ネットワークの発達によって膨大な情報の収集が可能となったことから、益々それら情報の分析が重要となっている。本講は、その分析方法を習得することを目標とする。</p> <p>具体的には、以下のアプローチをできるだけ平易に概説する。可能ならば、コンピュータを用いて実習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の基礎 2. オペレーションズリサーチの基礎（線形計画法、組み合わせ数学、ネットワーク論） 3. コンピュータシミュレーション 		<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計理論の基礎を学習する。 ・経営関連データへの統計理論の応用をコンピュータ実習を介して行う。 <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線形計画法を中心に学習し、非線形計画法の概要を学習する ・簡単な組合せ数学およびネットワーク理論を学習する。 ・統計理論、ORの応用として、コンピュータシミュレーションを学習する。 <p>受講者が多い場合、コンピュータによる演習はデモンストレーションレベルに止める。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義中に行う課題と期末試験で総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて講義中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>無し</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
オペレーションズ・リサーチ		通 期	4 単位	太 田 雅 晴
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>辞典によれば、オペレーションズ・リサーチとは、『システム運用上の問題に、数学的・科学的方法を適用し、最適の選択を発見する技法。経営、軍事での意思決定や、作戦計画などに利用』とあり、ORと略して呼称される。軍というぶっそうな言葉がこの説明の中にはあるが、要はいろいろな仕事をする上で、費用においてもスピードにおいても最適なやり方を、科学的に明らかにしようとするのがこの科目を勉強する意味である。近年では、発見された最適な方法をコンピュータプログラムにして利用することで我々の生活を豊かにしてくれている。例えば、車に搭載されたナビゲーションシステムで最短のルートドライバーに示してくれたり、最も利益が上がるようにコンピュータが自動的に株の売買をしてくれたり、コンビニエンスストアでお客さんが満足がいくようにまた店舗の運営費用が安くなるように商品の発注を自動的に行ってくれたりするのはその例である。本講では、事例を用いながらORの基礎的理論を勉強する。特に、情報処理関連試験を受けようとする人達にとっては重要な科目であるとともに、将来、プランニングに関わろうとする人達にとっても学習することで得た知見は役に立つであろう事を保証する。</p> <p>人数の少ない場合、コンピュータを利用したいと考えています。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>左記学習内容の講義を行うが、具体的には下記の課題について事例を踏まえながら講義を進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最適な量を計画する。 <ul style="list-style-type: none"> ・最適な生産量を計画する ・最も売上が上がるようにマーケティング予算を媒体に割り振る ・品切れがおこらずかつ店舗運営費用が安いように商品の在庫を計画する 2. 最適な組み合わせを発見する。 <ul style="list-style-type: none"> ・最も速くいくルートの発見 ・最も適切な人員の配置計画の発見 ・最も利益の上がる生産・販売すべき製品種の発見 3. 最適計画って簡単に見つかるんですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションの役割 ・人工知能技術の役割 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義中に行う課題と期末試験で総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて講義中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>無し</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営分析		通 期	4 単位	坂 上 学
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、企業の財務情報をもとに、企業の財務状態、経営成績、資金繰りの状態などを分析する手法について解説する。財務諸表を利用した伝統的な比率分析から、比較的新しい企業分析手法まで、幅広く扱う予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 企業の収益力の分析 2 損益分岐点分析 3 企業の安全性の分析 4 生産性の分析 5 各種会計処理と経営分析 <p>前期は、教科書を使用しながら財務諸表分析の基礎を解説する。これらの知識をもとにして、決算広告を利用した財務諸表分析を実際におこなってもらう。後期も引き続き教科書を利用するが、後半ではプリントを配布し、資本市場に基づく企業評価理論について解説をおこなう予定である。</p> <p>講義を理解するためには、会計の基礎知識が必要となる。前期・後期を通じて、計算機を多用するので必ず持参すること。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点（ミニテスト＋レポート）50%、期末試験 50% の割合で点数を総合し、評価をおこなう。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>岩本繁『日経文庫708 経営分析の知識』（日本経済新聞社、1994）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
管理会計論		春学期集中	4 単位	清水 信匡
<p>[講義概要]</p> <p>企業は様々な経営管理の手段を有しているが、その中核に計画とコントロールシステムがあります。企業における計画とコントロールの主要部分を管理会計が担当しています。したがって、本講義では、まず経営管理活動における計画とコントロールの意義を説明します。次に、計画とコントロールがどのように管理会計技法によって遂行されているのかを説明します。</p> <p>[学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①計画とコントロールの理解 ②管理会計の主要な技法の理解 	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 2 経営管理プロセスにおける管理会計の役割 3, 4, 5 計画とコントロール 6, 7, 8 短期利益計画 9, 10, 11 予算管理 12, 13, 14 単純な仕事のコントロール 15, 16 17 事業部制会計 18, 19 20 原価企画 21, 22 管理会計の展開 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の成績で基本的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>加登豊『管理会計入門』（日経文庫C41）日本経済新聞社1999年 伊丹敬之・加護野忠夫著『ゼミナール経営学入門（改訂版）』日本経済新聞社1993年 加登豊・李建『ケースブックコストマネジメント』新世社2001年</p>			
<p>[教科書]</p> <p>門田安弘著 『管理会計－戦略的ファイナンスと分権的組織』 税務経理協会 2001年</p> <p>生協にて一括して購入し販売する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情 報 会 計 論		通 期	4 単位	坂 上 学
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、会計行為を情報行為とみる観点から、会計情報の有用性について考察する。ここでは、経済システムのサブシステムである金融システムと会計システムが相互に関連しあう領域における会計問題を重点的に講義する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 金融環境とわが国の会計制度 2 債権者保護と決算制度 3 投資者保護とディスクロージャー制度 4 外貨換算会計の基礎知識 5 デリバティブ時価会計の必要性 6 ボラティリティーとバリュエーション・アット・リスクの計算 7 キャッシュフロー現在価値の計算 8 理論先物金利の計算 9 デリバティブの時価評価（金利スワップ評価の設例） <p>前期は、教科書を使用しながら会計制度をめぐる話題を中心に講義をすすめる。後期は、プリントを配布し、金融商品をめぐる会計の諸問題を扱う。実際に計算問題を解いてもらい、金融システムをめぐる会計情報がどのように生み出されていくのかを肌で感じてもらえるように工夫するつもりである。講義を理解するためには、会計の基礎知識が必要となる。後期の講義では、計算機を多用するので必ず持参すること。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点（ミニテスト＋レポート）50%、期末試験 50% の割合で点数を総合し、評価をおこなう。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>ディスクロージャー研究会編『現代ディスクロージャー論』（中央経済社、1999年）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>柴健次著『テキスト金融情報会計』（中央経済社、1999年）。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
原価計算論		秋学期集中	4 単位	小 林 哲 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>多品種小ロット生産、JITないしリーンな生産方式、FA化、グローバル化などに対応する現代経営を取り巻く原価計算の課題と動向を背景としながら、原価計算及びコスト・マネジメントについて講義を行います。</p> <p>製品原価計算の基礎的な概念や手続についても説明を行うが、原価企画、ライフサイクル・コスト、品質コストのマネジメントなど、トピカルな問題についてもできるだけ時間を割いて講義を進めていきたいと思っています。</p> <p>現代経営における原価計算及びコスト・マネジメントについての知識を身につけることが学習の目標です。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>次の2つの部分を適当に組み合わせて講義をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 主として、製品原価計算に関する基礎知識と計算の手続。 (2) コスト・マネジメントに関する基礎知識と 原価企画、ライフサイクル・コスト、品質コストのマネジメントなどを中心として現代経営が取り組んでいる課題 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末テストと普段の演習などへの参加頻度</p>	<p>[参考文献]</p> <p>小林哲夫『原価計算：理論と計算例』（中央経済社） 日本会計研究学会『原価企画研究の課題』（森山書店）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>小林哲夫『現代原価計算論：戦略的コスト・マネジメントへのアプローチ』（中央経済社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
税務会計		春学期集中	4 単位	中 田 信 正
[講義概要・学習目標] (講義概要) 税務会計は、会計のうち、税法に関連する分野を扱うものである。主な内容は、法人税を中心として、法人の課税所得金額を計算する仕組みや方法を学ぶことにある。講義においては、まず、納税主体である法人の意味や種類について述べ、所得計算の基本的な考え方を財務会計と関連させて説明する。ついで、益金および損金の各項目に関する税務上の処理にふれ、また、税額の計算方法について学ぶ。さらに、申告、更生・決定、不服申立てについても論じたい。理解を深めるため、できるかぎり計算練習を行いたい。 (学習目標) ①法人税法における課税所得金額と税額の算定方法の概要を、体系的に理解する。 ②税法上の所得金額と財務会計上の利益との関係および両者の相違を把握する。	[講義計画] ① 法人税の納税主体 ② 各事業年度の所得金額の計算体系 ③ 売上に関する税務 ④ 棚卸資産評価と売上原価 ⑤ 固定資産と減価償却 ⑥ 特別償却 ⑦ 繰延資産の償却 ⑧ 役員報酬・賞与等 ⑨ 寄付金・交際費 ⑩ 租税公課 ⑪ 貸倒損失 ⑫ 受取配当金 ⑬ 引当金 ⑭ 圧縮記帳 ⑮ 欠損金の繰越・繰戻 ⑯ 税額の計算 ⑰ 申告・納付・更生・決定等 ⑱ 期末試験のための答案練習			
[成績評価の方法] 期年末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。	[参考文献] 井上久彌ほか(著)『法人税の計算と理論』(税務研究会出版局) 国税庁法人税課長(監修)『私たちの法人税』(大蔵財務協会) 大蔵省主税局税制第一課監修『法人税法規集』(中央経済社) 大蔵省主税局税制第一課監修『法人税取扱通達集』(中央経済社)			
[教科書] 中田信正(著)『税務会計要論(十一訂版)』(同文館)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
監査論		秋学期集中	4 単位	バ ク テ ヨ ン 朴 大 栄
[講義概要・学習目標] バブル経済の崩壊とともに、企業が公表する財務諸表の粉飾問題、銀行の不正融資など企業経営者による不正行為が社会的な関心事となっている。同時に、連続する大手企業の倒産、それにともなう企業開示情報への不信が経済社会に混乱を引き起こしている。 このような状況のもと、監査に対する社会的関心も高まってきている。監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。 本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心に、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。	[講義計画] 講義の順序を示す。 第1章 監査とは(CPA業務) 第2章 通説監査論の考え方 第3章 情報監査論の考え方 第4章 その他の監査論 第5章 監査の必要性 第6章 監査の限界と補強方法 第7章 監査の歴史的発展 第8章 監査目的と不正 第9章 監査基準の意義 第10章 監査人の資格と条件 第11章 監査人の正当注意 第12章 監査証拠 第13章 監査計画 第14章 内部統制と試査 第15章 監査報告書と適正性 第16章 監査意見 第17章 特記事項			
[成績評価の方法] 定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。	[参考文献] 鳥羽至英著 『監査基準の基礎 第2版』 白桃書房 高田正淳著 『最新監査論』 中央経済社			
[教科書] 加藤恭彦・友杉芳正・津田秀雄編著 『監査論講義』 中央経済社	その他、講義中に適宜指示する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際会計論		通 期	4 単位	柴 理 梨 亜
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では当然、会計もその影響を受けている。日本でも国際会計基準が重要視されるようになり、日本の会計基準との調和化問題も大きな課題となっている。</p> <p>本講義では国際会計基準、アメリカ式財務諸表や会計原則、連結財務諸表や監査等について学び、多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになるのが目的である。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財務会計の国際的視点 2. 財務会計実務の多様性 3. 財務会計における多様性の調和化 4. 国際化が進んだ環境のもとでの財務報告 5. 世界の開示実務 6. 多国籍企業の連結財務諸表 7. 多国籍企業の外貨換算 8. 国際財務諸表分析 9. 多国籍企業における業績評価 10. 国際会計における新たな諸問題 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期と後期のテストの結果と平常点を総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西川郁生監修 JUSCPA国際会計基準専門部会著「よくわかる国際会計基準」(第2版)(中央経済社) 2. 長谷川重男、萩 茂生、川本修司(著)「日本の財務諸表が変わるー会計の国際化の進展」(中央経済社) 3. 青山監査法人プライス ウォーターハウス「国際会計基準ハンドブック」新版(東洋経済新報社) 		
<p>[教科書]</p> <p>ミューラー、ガーノン、ミーク(著)野村健太郎、平松一夫監訳「国際会計入門」第4版(中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																										
税法		秋学期 集 中	4 単位	中 田 信 正																										
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>(講義概要) 税法のうち、身近な問題を対象に、個人の所得課税および資産課税を講義内容とする。まず、日本の税制を全般的に述べた後、所得税を取り上げる。利子所得、配当所得、給与所得等の課税所得を種類別に説明し、個人事業者に対する事業所得の計算方法および資産譲渡に課せられる譲渡所得についても論じたい。ついで、相続財産に対して課せられる相続税を取り上げ、その計算構造および財産評価基準を検討し、関連して贈与税にもふれることにしたい。理解を深めるため、計算練習を重視する。</p> <p>(学習目標) 所得税および相続税の基本的仕組みを、体系的に理解する。</p>		<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>I 日本の税制</td> <td>10 山林所得</td> </tr> <tr> <td>II 所得税法</td> <td>11 一時所得</td> </tr> <tr> <td>1 納税義務者</td> <td>12 雑 所得</td> </tr> <tr> <td>2 所得の種類</td> <td>13 事業所得</td> </tr> <tr> <td>3 課税所得の種類</td> <td>14 所得の総合課税と分離課税</td> </tr> <tr> <td>4 利子所得</td> <td>15 所得控除</td> </tr> <tr> <td>5 配当所得</td> <td>16 税額の計算</td> </tr> <tr> <td>6 不動産所得</td> <td>17 源泉徴収・年末調整</td> </tr> <tr> <td>7 給与所得</td> <td>III 相続税法</td> </tr> <tr> <td>8 退職所得</td> <td>1 課税財産・非課税財産</td> </tr> <tr> <td>9 譲渡所得</td> <td>2 相続税の計算構造</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 財産評価基準</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4 贈与税の計算構造</td> </tr> </table>	I 日本の税制	10 山林所得	II 所得税法	11 一時所得	1 納税義務者	12 雑 所得	2 所得の種類	13 事業所得	3 課税所得の種類	14 所得の総合課税と分離課税	4 利子所得	15 所得控除	5 配当所得	16 税額の計算	6 不動産所得	17 源泉徴収・年末調整	7 給与所得	III 相続税法	8 退職所得	1 課税財産・非課税財産	9 譲渡所得	2 相続税の計算構造		3 財産評価基準		4 贈与税の計算構造		
I 日本の税制	10 山林所得																													
II 所得税法	11 一時所得																													
1 納税義務者	12 雑 所得																													
2 所得の種類	13 事業所得																													
3 課税所得の種類	14 所得の総合課税と分離課税																													
4 利子所得	15 所得控除																													
5 配当所得	16 税額の計算																													
6 不動産所得	17 源泉徴収・年末調整																													
7 給与所得	III 相続税法																													
8 退職所得	1 課税財産・非課税財産																													
9 譲渡所得	2 相続税の計算構造																													
	3 財産評価基準																													
	4 贈与税の計算構造																													
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>国税庁広報課長監修 『やさしい譲渡所得』(大蔵財務協会) 国税庁資産税課長監修 『やさしい相続税』(大蔵財務協会) 国税庁広報課長監修 『やさしい贈与税』(大蔵財務協会)</p>																												
<p>[教科書]</p> <p>ー使用予定ー 国税庁所得課長監修『平成14年度 私たちの所得税』(大蔵財務協会)</p> <p>後半に使用する相続税については別途指示する。</p>																														

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	11	秋学期集中	4単位	一ノ瀬 篤
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>下記書物の第2章（ユーロ誕生までの経緯）を、解説を加えながら丁寧に読んでいく。このテキストはイギリスの代表的経済新聞 Financial Times 紙に掲載されたユーロ（EUの共通通貨）関係の記事を集大成したものである。したがって章節構成は必ずしも厳密ではない。その反面、どこからでも気楽に読める利点がある。</p> <p>ドルと並ぶ国際通貨としての役割を期待されているユーロであるが、前途には問題も多い。ユーロについて、歴史的経緯を中心として、基礎的な知識を得ることを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1回に1記事（約2頁）を読む。1記事について数人の発表者を決め、発表者は担当部分の和訳と要約を付したレジюмеを作成し、これに基づいて該当部分の内容を報告する。</p> <p>出席は重視する。初回は一ノ瀬がレポーターになる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験の他に小テストを行い、それらの結果と、発表・発言・出席状況を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>田中素香編著『EMS：欧州通貨制度：欧州通貨統合の焦点』（有斐閣、1996年）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>Financial Times, The Birth of the Euro, Penguin Books, 1998</p>				

外
書
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	12	通 期	4単位	岡 村 誠
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>アメリカの大学で使われている中級レベルのミクロ経済学のテキストを讀んでいきます。</p> <p>①ミクロ経済学の考え、理論を「理解する(覚えるではない)」</p> <p>②現実の問題(税金、国際貿易、公費規制緩和など)にどのようにミクロ経済学が使えるか</p>	<p>[講義計画]</p> <p>① 消費者・家計の行動 ② 企業の行動</p> <p>③ 市場のパフォーマンスとその評価</p> <p>④ 不完全競争とゲーム理論</p> <p>⑤ 公共財と外部性</p> <p>⑥ 情報の非対称性</p> <p>⑦ 社会的選好と公共部門の意思決定</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点、とレポート</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>Perloff, Microeconomics</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	13	通 期	4 単位	か 何 イ 為
[講義概要・学習目標] 社会主義市場経済移行中の中国経済・社会環境を反映し、現代中国事情への理解に有益な初歩的な中国語文献の購読により、中国語の読解力を高めながら、中国経済・社会に対する理解を深めるという一石二鳥の効果を図る。	[講義計画] 通年講義で30ページを読み、1学期15ページ程度、1講義あたり1-2ページ程度。			
[成績評価の方法] 平常点	[参考文献] 必要に応じて参考文献を指示する。			
[教科書] 使用しない。ただし、講義の際に随時プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	14	通 期	4 単位	佐々木 和子
[講義概要・学習目標] Final Reports of the United States Strategic Bombing Survey, Kawanishi Aircraft Company, Corporation Report, Kawasaki Aircraft Company, Corporation Report (米国戦略爆撃調査団報告書会社報告川西航空機, 川崎航空機)の購読を通じて、太平洋戦争期の日本の航空機工業特に川西航空機、川崎航空機について概観する。 米国戦略爆撃調査団報告書には、戦時経済部門の46巻が含まれており、15年戦争期の日本経済の発展と崩壊の過程を示す重要な資料となっている。兵庫県内に工場をもっていた川崎・川西両航空機の報告書の購読をおこなう。	[講義計画] 授業は、事前に報告担当者を決め、テキストを翻訳し、適宜解説をおこなう。前期には、調査団の組織、報告書の全体像にもふれる。後期には、川西航空機、川崎航空機の報告書を中心に読み進めていく。			
[成績評価の方法] 成績は、出席状況と報告内容によって総合的に評価する。報告をおこなわなかった者にはレポートを課すことがある。	[参考文献] 授業中に適宜指示する。			
[教科書] テキストは、随時コピーして配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	15	通 期	4 単位	寺中 直人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義では、インターネットを使い、英語資料・文献の講読を行う。前期の授業では、基本的なコンピュータの使い方や英文資料の検索方法、あるいは翻訳する際に便利なツールを紹介する。また HTML を使った報告の仕方を説明する。後期は、何回か課題を出すので、e-mail で報告してもらう。それをもとに、英文を翻訳する際のテクニックや報告の仕方をコメントする。</p> <p>この講義で習得してもらいたいことは、インターネットを利用した英語情報収集の技術と他者に対する報告能力である（HTMLの作成も含む）。したがって、英語の読解力とともに、それをまともな日本語で報告できるかが問われる。</p> <p>e-mail を基本的な連絡手段とするので、履修者は必ず大学が提供しているメールアドレスを取得しておくこと。また、個々の授業の出席は必須ではないが、前期の授業は上記の内容など技術的なことがらを説明するので、出席すること。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーリング 2. コンピュータの使い方 3. メールの送受信、ファイルの添付方法 4. インターネットによる英文情報収集（1） 5. インターネットによる英文情報収集（2） 6. 報告の仕方 7. HTML入門（1） 8. HTML入門（2） 9. HTML入門（3） <p>以下、課題の説明とその報告に対する指示の繰り返し</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>課題報告の内容を中心に評価する。詳しくは、最初の講義で説明するので必ず出席すること。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>小林順『インターネット英語入門』（岩波ジュニア選書354、2000年） 石橋太郎・遠山弘徳・柴田透『はじめようインターネットで経済学』（日本評論社、1998年） 新田俊三・中山光太郎『社会経済のためのインターネット入門』（時潮社、1997年）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	16	通 期	4 単位	中村 征之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ヨーロッパの統合体であるEUが超国家的政治、経済組織として機能を強めてくるにつれ、近年、ヨーロッパ各地の地域政府（州）、地方自治体が自ら、「政府」としての役割強化を目指す動きを展開し始めている。このような地域、地方を基盤とした政府活動を生み、支える「自治」の論理はどこから生まれたのか。また、どのようにして近代的政治システムの中で欠くことのできない存在にまでなってきたのか。その歴史、理念の展開をたどるテキストを通して自治の思想、構造を探る。それは現代社会の政治的、経済的理解を深める基礎努力につながる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>教科書を精読、参考文献にも目を通しながら、英文解説のスピードよりも、内容理解を深めることに主眼を置く。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の定期テストによる。</p>		<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アメリカの民主政治」A・トグヴィル（講談社学術文庫） ・Tony Byrne, Local Government in Britain, Penguin Books. ・「近代の政治思想」福田歓一（岩波新書） 		
<p>[教科書]</p> <p>・Alan Norton, International Handbook of Local and Regional Government, Edward Elgar Publishing Limited, 1997.</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	17	通 期	4 単位	原 正 行
〔講義概要・学習目標〕 経済学に関する英文を読むことによって 経済学の基礎理論を学習すると同時に、 英語の読解力を高める。	〔講義計画〕 輪読形式で、英語を日本語に翻訳する。			
〔成績評価の方法〕 平常点	〔参考文献〕			
〔教科書〕 <i>Economics</i> by P. Samuelson & W. Nordhaus, 18th edition, McGraw-Hill Book Co.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	18	通 期	4 単位	蒔 谷 硯 児
〔講義概要・学習目標〕 主に英文新聞掲載の時事報道の読解によって 最近の世界および日本の情勢についての認識を深めると 共に、英字新聞・雑誌の読解力の向上を図ることを 目標とする。 テキスト以外にも随時外国の雑誌や新聞の記事を コピー配布して速読力の養成を図る。	〔講義計画〕 2001年に発生した時事ニュース、ニューヨークWTCビルへの テロ事件をはじめタリバンの伊勢谷夜城、代理出産、安楽死問題、 小泉政権の誕生、歴史教科書、靖国参拝問題、京都議定書、 日本の不況、ブッシュ政権の政策等についての英文記事を読解 し、各節毎の課題に取り組みもらう。 併せて「世界情勢の現状と分析」(テキスト後半の邦文エッセー) や新聞で多用例が多い英日用語(テキスト巻末付録)の 学習も行う。			
〔成績評価の方法〕 出席状況、課題に対する取り組み方、小テストの成績等 を総合的に勘案して評価する。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 Haruo Kizukida, News Express 2002, Wallace Gagne, MACMILLAN LANGUAGEHOUSE				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	19	通 期	4 単位	松 宮 広 和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>英語文献の講読を通じて、インターネット関連事業を中心とする経済法分野における現代の状況の理解を深めることを1年間の目標とします。現代の社会においては、非常に多くの非常に有用な情報がインターネット上に公開されています。英語力の修得は、これらの情報の入手と活用を可能とします。この授業では、単に英語力の養成のみならず、前記の分野において、特に経営学を専攻する方々にとって有用であると考えられる情報とそれを入手する手段についても一定の知識が得られることを目標とします。教材については、インターネット上から入手することが可能な英文資料及び英字新聞記事等で、時事的な内容について記されたものを取り扱うことを予定しています。講義は可能な限り平易であることを目指し、法律関連科目を登録したことがない方々の参加も歓迎します。その様なことも考慮して、必要に応じて、法律分野における一般的な知識に関する解説も加えます。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>授業は、事前に担当者を決定して、テキストの担当箇所の翻訳を行ってまいります。適宜それに対する解説をこちらで加えます。全体として、単に英語力の養成のみならず、インターネット関連事業を中心とする経済法分野における現代の状況の理解を深めることを1年間の目標とします。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、担当箇所の発表内容及び質疑応答の内容等から判断する平常点に基づいて、評価を行います。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>日本語で記された経済法に関する基本書として、以下の様なものを挙げておきます。</p> <p>根岸哲『経済法』（放送大学教育振興会 2000年）。</p> <p>J. H. シェネフィールド・I. M. ステルツァー（著）、金子晃ほか（訳）『アメリカ独占禁止法-実務と理論』（三省堂 1999年）。</p> <p>小野昌延『知的財産法入門-特許・商標・著作権の常識-（第3版）』（有斐閣 1998年）。</p> <p>その他、必要に応じて適宜指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>テキストは、随時プリントの形態で配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	20	春学期集中	4 単位	義 永 忠 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>海外の研究者の視点から、日本経済の中の中小企業、特に小企業の存在がどの様に捉えられているのかについて知る事を、学習の目標とします。分担を決め、報告・ディスカッションを通じ、さらに理解を深めてもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教科書に基づいて進めていきます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>分担を決め報告を課します。報告内容と、その後のディスカッションを通じて評価を行いたいと考えています。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>渡辺幸男『日本機械工業の社会的分業構造』有斐閣、1997年。</p> <p>伊丹敬之・松島茂・橘川武郎編著『産業集積の本質』有斐閣、1998年。</p> <p>植田浩史編『産業集積と中小企業』創風社、2000年。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>Whittaker, D. H., <i>Small firms in the Japanese economy</i>, Cambridge, Cambridge U.P., 1997.</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	21	通 期	4 単位	橋 本 文 彦
〔講義概要・学習目標〕 高度に情報化された社会に生きる私たちは、アクセスしうるその膨大な情報を適切に利用し、意思決定を行っていく必要がある。しかしながら、その情報量の多さのために、最早私たち人間が、直接にその情報を処理しきれないところまで来てしまっている。 そこで、私たちに成り代わって、コンピュータソフトウェアを代理人（エージェント）にその情報処理を任せて意思決定を行おうとする試みがひろく行われ始めている。 勿論、現在のソフトウェアエージェントは、完全に自律的に情報を収集し意思決定を行うような完成された形の人工知能ではないので、われわれはエージェントを作成する際に、人間が最適と思われる「戦略」をエージェントに組み込む必要がある。 従って、ソフトウェア・エージェントを学ぶことは、逆に人間が通常行っている意思決定の過程を反省しその「戦略」を抽出する方法を学ぶことであり、またこの戦略が果たしてより大規模な情報に対しても同等に役立つのか、あるいはわれわれが（行為しながらも気づいていない）何らかの別の要因が意思決定に関与しているのか、などなどを学ぶことでもある。	〔講義計画〕 8 th European Workshop on Modelling Autonomous Agents in a Multi-Agent World '97 で報告された論文集から経済学に関連する論文を読み進める。 テキストは入手困難なので、コピーして配布。 必要に応じて論文中で登場するモデルを実際にプログラムしたものをコンピュータによってデモンストレーションすることを予定している。			
〔成績評価の方法〕 毎回の報告と期末の試験によって評価する	〔参考文献〕 講義中に指示			
〔教科書〕 Boman・Van de Velde (Eds.), Multi-Agent Rationality, Springer				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	22	春学期集中	4 単位	小早川 義 則
〔講義概要・学習目標〕 わが国の刑事手続に最も大きな影響を与えたアメリカ合衆国最高裁判例を精読する。初心者にとってはやや難解であろうが、著者は原典に直接触れることによって、大学生としての知的刺激の高まりが期待されるとともに、法の世界への関心が増すと思われる。	〔講義計画〕 当初の教回には 適当な日本語文献の紹介とともに、テキストの内容およびわが国への影響などについて解説する。その後参考文献に目を通しながらテキストを精読する。それにあわせてアメリカの映画（例えば“評決のとき”）などを鑑賞しつつ、その影響力について考えてみたい。			
〔成績評価の方法〕 報告内容を含めた平常点によるが、出席状況を重視する。	〔参考文献〕 小早川義則『ミランダと根拠者取調べ』（成文堂、1995年）、 その他 適宜指示する。			
〔教科書〕 Miranda v. Arizona, 384 U.S. 436 (1966) （コピーして初回時に配布する）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	23	春学期集中	4 単位	松 田 聰 子
[講義概要・学習目標] 「法女性学」に関する研究が最も盛んなアメリカにおいてテキストとして用いられている M.Becker, C.G.Bowman, M.Torrey, Feminist Jurisprudence (West Publishing,1994)を読み、法女性学の対象としている領域の理解を深め、法女性学理論の深遠を探る。法女性学は、法の世界を女性またはジェンダー視点から読み直していこうという学問領域であるから、その対象とするテーマは多岐にわたる。約 900 頁のテキストは、判例とその解題、そして個々のテーマに関する論文から成り立っている。単に輪読していくのではなく、わが国の法理論にどうリンクするかも議論していく。	[講義計画] テキストはテーマ毎にコピーし配布する。受講生は必ず予習をし、翻訳・討論に備えること。			
[成績評価の方法] 平常点	[参考文献]			
[教科書] 随時コピー配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	24	秋学期集中	4 単位	清 原 泰 司
[講義概要・学習目標] 日本の民法について英語で説明した文献を読むことにより、日本の民法の概要を理解することができる同時に、それが英語ではどのように表現されているかを理解することができよう。	[講義計画] 翻訳担当者が翻訳の報告を行い（翻訳の分量は、一人半ページ程度の予定）それに対してコメントする。			
[成績評価の方法] 出席と報告内容を総合評価する。	[参考文献] 『ポケット六法』など			
[教科書] テキストは、コピーして配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	25	秋学期集中	4 単位	佐藤啓子
[講義概要・学習目標] テニエスの『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』を 原著(ドイツ語)で読む。この本は社会学を越え 社会科学全般に影響を与えた基本書である。 社会科学に関するドイツ語を読む基本的 能力を育てる。	[講義計画] 初回に目次を読み、次に各自興味のある所を 選んで読み進める。(場合によ、2回は自分が目次を 作成する)			
[成績評価の方法] レポート(和訳・ゼミの際の討論を含む)で 採点する。	[参考文献]			
[教科書] Tönnies, Gemeinschaft und Gesellschaft (Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 1991)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	26	秋学期集中	4 単位	本間法之
[講義概要・学習目標] アメリカの著名な契約法学者、Farnsworth によるアメリカ法の入門書 An Introduction to the Legal System of the United States の中から、アメリカ法の理解のために必要と思 われる部分を抜粋して編集されたテキストを用いて、輪読の形式で講読を行います。原著 は、外国人向けの講義をベースに書き下ろされたもので、アメリカ合衆国の法制度の基礎 的な事柄について、極めて明快な英語で、丁寧な叙述がなされています。或る地域の研究 のためには、その地域の社会的な枠組みとしての法に関する一定の知識が不可欠であり、 アメリカ合衆国の歴史・文化・社会・経済などに興味をもつ学生諸君にとって有益な内容 を含むものといえます。	[講義計画] ① Historical Background ② The Judicial System ③ Classification ④ Private Law ⑤ Public Law			
[成績評価の方法] 平常の勉強状況(講義への出席・訳出の状況・受講態度)をもとに成績の評価をします。	[参考文献] 講義の際に、適宜紹介します。			
[教科書] E. アラン・ファーンズワース 横田 淳 「アメリカ合衆国の法律入門 An Introduction to the Legal System of the United States」(南雲堂)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	27	通 期	4単位	藤 田 香
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>英文による経済学の読解に慣れることを目標とする。テキストは、経済学の立場から、現代経済社会の問題を分析している。経済学的な発想法の基本を理解するとともに、それを基礎として公共政策を策定する上での指針について考える。必要に応じて、背景説明や用語解説を行う予定である。</p> <p>なお、このクラスは、春学期途中（5月中旬）から春学期終了まで担当者（藤田）が出産休暇に入るため、この期間の講義は行われず、夏期、冬期の補講期間に必要回数の講義が集中的に行われることを承知ねがいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>順番に割り当て部分の英文和訳を報告していただくとともに、テキストの内容についての補足説明を加える。次に、内容に関する確認テストを行う。ただし、テキストの全てについて和訳を行うとは限らない。講義中に、全ての人に英文和訳をしてもらうこともある。</p> <p>各自、予習、復習を行い、内容を理解する必要がある。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義の3分の2以上の出席、レポートの提出、中間試験の受験を行った受講生のみ定期試験の受験資格を与える。</p> <p>成績評価は、概ね出席20%、割り当て部分の和訳15%、レポート15%、中間試験20%、期末試験30%によっておこなう。</p> <p>最初の講義に必ず出席すること。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>こちらで用意します。</p> <p><予定教科書> Miller, R.L., Benjamin, D.K. and D.C. North(1996). The Economics of Public Issues, 10th edition, Harper Collins College Publishers.</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	31	秋学期集中	4単位	小川 登
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ドップの古典的名著『賃金論』の逐語訳を通じて、社会科学入門を究めた。M. Dobbの『Wages』はケインズが初代編集長をつとめた The Cambridge Economic Handbooksのなかの1冊であり、いまや古典的名著といえよう。初版は1928年。</p> <p>ドップの英語・文体は難解そのものである。キングス・イングリッシュ（今様に言えばクイーンズ・イングリッシュ）で、一文が長いのが特徴。言い回しが複雑でワン・パラグラフがなにしる長いので、和訳していくのが難しい。だから逆に訳しがいがある。</p> <p>ドップの『Wages』は、賃金論というよりも賃金制度論と言ったほうが適切で、資本主義経済全般の制度分析となっている。</p> <p>第1回目の講義で15名以下の学生数にしぼる（抽選で決める）。よって、第1回目の講義に欠席した学生は受講不可とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>ドップの英語文が難解そのものなので、英和辞典を片手に持ち、ワンセンテンスづつ 逐語訳（直訳）をしていただく。訳する人は、無差別に、その場、その場で当てていく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>何回、ワンセンテンスを訳したかによる。単位認定は出席者の我慢強さによるものとし、極めて厳しくする。試験はしない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>無し</p>			
<p>[教科書]</p> <p>M. Dobb『Wages』 James Nisbet, 1958. (テキストは絶版になっているので、当方でコピーして配布する)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	51	通 期	4 単位	岡 本 英 嗣
〔講義概要・学習目標〕 1. 外国書の文献を通じて異文化に触れる。 2. 辞書を片手にして外国書文献の意味をとる練習をする。 3. 外国書講読を通じて経済や経営の専門用語を身に付ける。	〔講義計画〕 前期 Leadership（リーダーシップ）論をとりあげる。 後期 internal communication（組織内コミュニケーション）論をとりあげる。 前期・後期とも題材は具体的で分かりやすいものを選んだ。高校時代に使った辞書で十分である。分かりやすく説明し、ゆっくと進むつもりである。 内容はリーダーシップやコミュニケーションに関するものであり、大変親しみやすいものにした。			
〔成績評価の方法〕 出席点（20%）、発表点（30%）、試験成績（50%）の割合で総合評価するので出来るだけ授業に出席して発表（全訳）することが好ましい。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 Robert N.Lussier, <i>Human Relations in Organizations</i> , Richard D. Irwin, Inc., 1990 を使う。テキストを購入する必要はない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	52	通 期	4 単位	岡 本 英 嗣
〔講義概要・学習目標〕 1. 外国書の文献を通じて異文化に触れる。 2. 辞書を片手にして外国文献の意味を取るようになる。 3. 外国書講読を通じて経済や経営の専門用語を身につける。	〔講義計画〕 前期 An overview of the functions of management：マネジメント機能の概観をとりあげる。 後期 MBO (management by objectives)：目標管理を取り上げる。 前期・後期とも題材の選択では抽象的なものは極力さけ、具体的で分かりやすいものを選んだ。高校時代に使った辞書で十分である。分かりやすく説明し、ゆっくと進むつもりであるから何ら心配する必要はない。「マネジメント」の醍醐味を十分味わって欲しい。			
〔成績評価の方法〕 出席点（20%）、発表点（30%）、試験成績（50%）の割合で総合評価するので出来るだけ授業に出席して発表（全訳）することが好ましい。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 Patrick J. Montana and Bruce H. Charnov, <i>Management</i> , Barron Educational Series, Inc., 1987. を使う。テキストの購入は必要ない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	5 3	通 期	4 単位	柴 理 梨 亜
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>国際化や情報化が進むなか、現代のビジネスマンにとっては英文の情報を直接取り入れ、分析し、利用することが不可欠となっている。特に会計の分野では企業の情報開示が重視され、24時間世界中で投資活動が行われる今日では会計情報を読み取る力が重要となる。</p> <p>この科目では、国際会計に関するテーマを中心に会計の専門用語及び基準等の知識を身につけることを目標とする。従って、会計の基礎知識があって、会計に興味がある学生の参加が望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>事前に担当を決め、プリントの翻訳と解説をして、全員でその内容について議論する。議論するためには、担当以外の学生も発表予定の内容をしっかりと読んでおくことも必要です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の報告内容、レポート、クラスでの発表を総合的に評価する。無断欠席は減点になります。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>* 「よくわかる国際会計基準」第2版、西川郁生（監修）JUSCPA 国際会計基準専門部会（著）、中央経済社</p> <p>* 「国際会計基準ハンドブック」新版、青山監査法人 プライス ウォーターハウス、東洋経済新報社</p>			
<p>[教科書]</p> <p>テキストはコピーして随時配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	5 4	通 期	4 単位	隅 田 孝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>マーケティングをいかに効率よく戦略的に計画・実践するかということとはほとんど全ての企業にとって非常に重要な課題である。また、企業はマーケティングを計画・実践するには生産、製品、販売、顧客、市場などさまざまな環境と密接な関係をもっていることを認識していなければならない。マーケティングの核となる概念をしっかりと理解した上で、以下のようなくことも学んでいく。</p> <p>企業が顧客のニーズ(needs)やウォンツ(wants)を認識し、それらに対して4P (Place, Price, Product, Promotion) を柱としたマーケティング・ミックスをどのように構築するのか。企業が自社製品を市場に送り出す際に採られる市場細分化がどのように行われるのか。事業ポートフォリオ、製品差別化、ニッチ戦略などマーケティングに関する事項について学習する。</p> <p>経営学およびマーケティングに関する数多くの専門用語を英文で学んでいくことになるため、受講生各人は予習が不可欠である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの概念 2. 生産、製品、販売、市場の概念 3. 顧客価値と顧客満足について 4. 企業のマーケティング環境 5. マーケティング・ミックスと4P (Place, Price, Product, Promotion) 6. 製品差別化 7. 市場細分化 8. 消費者行動1 9. 消費者行動2 <p>以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>Kotler, Philip(1994), <i>Marketing Management</i>, 8th ed., Prentice Hall. より抜粋しプリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	55	通 期	4 単位	津戸正広
<p>【講義概要・学習目標】 広い意味で経営学に関する新聞や雑誌の英文記事を素材にして、議論を重ねる。英語学の授業ではないので、むしろ経営学的センスを磨くことを主要な目標にしたい。最近の話題を取り上げるので、最も現代的なテーマについて考える良い機会となろう。経営や経済に関する用語はもちろんのこと、政治・法律・社会・文化などに関する用語も身につけていく。 毎回、できるだけ多くの受講生に指名するので、予習を怠らないようにしなければならない。進度はそれほど速くはないので、丹念に辞書をひく習慣をつけること。ただし、翻訳だけに偏らずに、受講生に率直な意見を出しあってもらい、授業を盛り上げる。英訳だけでは、深い印象が残らないし、新たな興味を引き起こしにくいからである。 英語が得意な人にも不得意な人にも、やる気をおこさせる授業にしていきたい。そのために、授業の最後の20分は、テキストとは別に、最近の経営学上の話題について紹介し、考えるヒントを指示する。 社会に出てからも、積極的に活躍できるように、そのための基本的な能力を積み上げていく。</p>	<p>【講義計画】 4月および5月は、なるべく基本的な話題を取り上げて、英文の記事に慣れてもらう。例えば、日本の企業の現状、最近の勤労者の姿勢・傾向などに関する素材を取り扱う。また、勉強の仕方についても、アドバイスする。 6月および7月は、経営学に関する特定の問題についての記事を取り上げ、やや深く議論をする。例えば、長びく不況と企業の現状、日本的経営の変質などに関する話題を扱う。 9月および10月は、英文を読みこなすだけでなく、各受講生に自分の意見を発表してもらう機会を増やす。特に、日本の現状を打開するための方策などについて、率直に意見を交わす。 11月から1月までは、多くの受講生が興味を持っているテーマを見極め、そのテーマを集中的に議論する。 1年間の授業を通じて、自信を持って議論できるテーマをいくつか身につけてもらう。この自信は、他の諸問題を考察する場合にも、役立つ。</p>			
<p>【成績評価の方法】 授業への出席を最も重視する。さらには、前期末・後期末の2回の試験、経営学理解の到達度、討論への熱意、積極的な質問なども総合的に考慮して評価する。</p>	<p>【参考文献】 必要に応じて指示するが、日頃から現代の日本に生じている諸問題について、新聞・雑誌・テレビなどを通じて、よく知っておくことが、最良の参考になる。</p>			
<p>【教科書】 プリントを配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	56 57	通 期 通 期	4 単位 4 単位	増 村 紀 子
<p>【講義概要・学習目標】 本講義の目標は、英語の専門書を読み解く能力を養うとともに、会計学の基礎概念を習得することである。英語を読むだけでなく、その内容を正確に理解できるようにするために、財務会計に関する下記の教材を輪読し、適宜企業が実際に公表した英文の財務諸表を参照しながら講義を進める。</p>	<p>【講義計画】 それぞれの授業で、教材の以下の章を輪読する予定である。 1. Introduction and background 2. Forms of business organization 3. Objectives, concepts and general principles 4. Bookkeeping and preparation of financial statements 5. Balance sheet and profit and loss account formats 6. Recognition criteria and valuation 7. Special accounting areas 8. Revaluation accounting 9. Notes and additional statements 10. Auditing 11. Filing and publication 12. Sanctions</p>			
<p>【成績評価の方法】 期末試験の成績、出席状況、授業中の発表内容を基に行う。</p>	<p>【参考文献】 桜井久勝『財務会計講義（第三版）』中央経済社、2000年。</p>			
<p>【教科書】 Sakurai, H. (2001). Japan - Individual Accounts. <i>Transnational Accounting</i>. Palgrave Publishers Ltd., 2, 1685-1807. より抜粋しプリントを配布する。</p>				